

講義要項（シラバス）シート

年度	2026(令和8) 年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	スタートアップセミナー	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子、押野まみ、 渡辺真輝、加藤美智子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本校での学び方の基本を習得するとともに、社会で通用するマナー、基礎知識を身に付けることを目的とする。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本学における学生生活の目標を述べるができる。 ・歯科衛生士という職業に近づくためのファーストステップである、実習室の使用法や医療人としての身だしなみについて述べるができる。 ・これからの就学の基礎となる数学、国語の力を確認し、確実に身につける。 				
回数	講義内容				
1	学習要項について①				
2	学習要項について②				
3	医療従事者の心得 身だしなみ				
4	歯科実習教室の使用について				
5	基礎力チェックテスト①				
6	基礎力チェックテスト②				
7	基礎力チェックテスト③				
8	試験				
講義方法 講義、体験、発表、試験と解説					
講義で使用する機器・教材 ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン 歯科実習室使用時の準備物については、追って連絡する。					
履修上の注意事項 積極的に授業に参加する。 基礎力チェックテストは、前もって試験範囲のプリントを配布する。 講義の順番は変更になることがあるので連絡に注意する。					
成績評価方法 出席と提出物、試験により評価する。 S: 90～100点、A: 80～89点、B: 70～79点、C: 60～69点、D: 60点未満					
教科書・参考書 学修要項 プリント					
予習復習のアドバイス 意欲的に参加しましょう。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	1時間目（9:00－10:30）	講義時間	1時間目		
科目名	生物学	講義曜日	木	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	立谷麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標 生体の構造を知るために、細胞の構造、働き、生命現象に関する基本的知識を習得する。				
	到達目標 細胞の構造と機能、細胞代謝、遺伝子と遺伝、化学反応と化合物、生命を構成する基本物質などについて説明できる。				
回数	講義内容				
1	生命とは何か、生命の誕生と変遷				
2	生物は細胞からできている①				
3	生物は細胞からできている②				
4	細胞の一生と個体の成り立ち				
5	生殖によって子孫をつくる				
6	試験（生物学・前半）、解説				
7	遺伝と遺伝子				
8	発生して体をつくる、刺激の受容と反応				
9	内部環境を保つ仕組み				
10	動物の行動と進化				
11	試験（生物学・後半）、解説				
12	人体の構成要素①				
13	人体の構成要素②、人体における化学反応				
14	糖質、脂質、タンパク質の代謝、タンパク質の合成				
15	人体における恒常性の維持				

講義方法

教科書をもとに、スライドを映しながら授業を進めます。
配布するプリントに穴埋めをしてください。
カラーペンなどで色分けすると、復習しやすいかと思います。

講義で使用する機器・教材

- ①パソコン、プロジェクター
- ②教科書、配布プリント

履修上の注意事項

生物学の試験は前半と後半の2回に分けて行います。
授業の進行具合で試験日程が変更になる場合があります。

成績評価方法

- ①出席:2/3回以上は必ず出席することとします。
- ②成績:試験が6割、出席点(授業態度を含む)が4割で計算し、前半と後半の平均を最終評定とします。

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 生物学

予習復習のアドバイス

教科書と配布プリントをもとに学習を進めてください。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目		
科目名	化学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高田雄京	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科医療の現場で患者さんの健康づくりに一助する歯科衛生士として、日常の現象を化学的に捉えて理解する習慣を身に付け、履修しなければならない専門科目や歯科医療で取り扱う様々な歯科材料及び試薬等を基本から理解するために必要な化学の基礎知識を習得することを目指す。				
	到達目標				
	専門科目や歯科医療で取り扱う様々な歯科材料及び試薬等を基本から理解するため、必要な化学的な基礎知識(下記に示した各回の講義内容)を習得する。				
回数	講義内容				
1	物質の分類と物質の構造、原子、分子、化学結合				
2	気体の性質と法則、医療及び生活への気体の応用				
3	溶液の濃度(比例式と濃度の計算)				
4	希薄溶液の性質とコロイド溶液				
5	酸とアルカリの性質、水素イオン濃度				
6	酸化と還元、金属の電気化学				
7	有機化合物の種類、有機化合物の構造と性質				
8	高分子化合物の重合反応、高分子化合物の性質				
講義方法 教科書、プリント、スライドを使用した座学形式の講義					
講義で使用する機器・教材 講義ノートを準備すること。また、講義資料をまとめるバインダーなどが必要。					
履修上の注意事項 講義ごとに資料を配布するので、必ずファイルして保存すること。また講義内容で重要と思われる部分をメモする習慣をつけること。演習を行うので復習すること。					
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験(60点以上を合格)					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 化学					
予習復習のアドバイス 内容の理解を深めるため、復習を中心に行い、演習がある場合には演習(計算問題)の復習も行うよう心がける。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	生命倫理学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	徳田幸雄	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人間観（人間とは何か？）、人生観（何のために生きるか？）、死生観（死んだらどうなるのか？）といった哲学・宗教的な問いを考察したうえで、現代社会が直面している倫理的課題に対して自身の立場や見解を明確にする。				
	到達目標				
医療従事者に求められる倫理観を身につけるとともに、一人の人間として自らを見つめ直す機会とする。					
回数	講義内容				
1	プラトンにおける「死の道」（古代ギリシャにおける死生観）				
2	ユダヤ教における倫理観				
3	キリスト教における倫理観				
4	イスラームにおける倫理観				
5	仏教における倫理観				
6	神道における倫理観				
7	優生思想				
8	人工妊娠中絶問題（生命か選択か）				
講義方法 プロジェクターでマインド・マップを投影しながら講義をすすめる。 なお、理解を深めるために、可能な限り視聴覚資料を活用する。					
講義で使用する機器・教材 配布資料（マインド・マップ、チェックテスト）					
履修上の注意事項 私語を慎むなど基本的なマナーを守ること。					
成績評価方法 講義のなかで実施するチェックテストおよび定期試験					
教科書・参考書 特になし。					
予習復習のアドバイス 予習：宗教や倫理に関連する時事問題に関心を持つこと。 復習：チェックテストを見直すこと。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	コミュニケーション学	講義曜日	木、金曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	加藤雅子	実務経験	医療法人、歯科医師会、一般企業へのコミュニケーション研修実施		
講義目標	一般目標				
	①コミュニケーションの基本である感じの良い挨拶、返事、反応ができるようになる。 ②相手と双方向のコミュニケーションを取り、相互理解が出来る。 ③相手を受け入れ、寄り添うことが出来るケア・コミュニケーションスキルを習得する。				
	到達目標				
①相手を尊重し、受容・共感することで、良好な人間関係を構築することが出来る。 ②相手に好感・安心感を与える言動が意識的に取れることが出来る。 ③自分自身のコミュニケーションの取り方に責任を持ち、客観的に振り返ることが出来る。					
回数	講義内容				
1	オリエンテーション（授業の概要説明、目標設定）、コミュニケーションの重要性				
2	医療・保健におけるコミュニケーションを考える視点とその役割				
3	コミュニケーションの目的とプロセス、ホスピタリティとケア・コミュニケーション（演習）				
4	好感・安心感を高めるコミュニケーション① ～対人コミュニケーションにおけるメッセージ伝達、安全で快適な空間環境作り、表情トレーニング～				
5	好感・安心感を高めるコミュニケーション② ～服装と身嗜み、立ち居振る舞い実践練習～				
6	好感・安心感を高めるコミュニケーション③ ～敬語と言葉遣い、安心感を高める応対表現～				
7	好感・安心感を高める声掛け ～患者応対実践練習①～				
8	好感・安心感を高める声掛け ～患者応対実践練習②～				
9	受容と共感のコミュニケーション① ～ペアワーク実践、交流分析、エゴグラム～				
10	受容と共感のコミュニケーション② ～アサーティブコミュニケーション、ケーススタディ～				
11	苦情とクレームの応対スキル ～ケーススタディ、演習～				
12	配慮ある支援が必要な被援助者とのコミュニケーション				
13	チームワークコミュニケーション ～報告・連絡・相談、ケーススタディ～				
14	より良いチームワークのためのマナーとコミュニケーション				
15	総復習、筆記試験				

講義方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークや実践練習を多く取り入れたアクティブラーニングを中心に進める。 ・実践練習後に全体にフィードバックをし、情報を共有。気づきや学びに繋げる。
講義で使用する機器・教材 <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード、プロジェクター(HDMI端子)
履修上の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の性質上、相手を尊重し、配慮した表現を意識しながら、積極的にコミュニケーションを図ること。主体性を持って参加し、よく聴き、よく考え、よく発言すること。傍観者にならない。 ・主体性を持って参加し、よく聴き、発言し、多くの気づきや学びを得、今後の人間関係の構築に活かすこと。 ・挨拶、返事はしっかりと行い、皆が気持ちよく授業に参加できる環境を整えること。
成績評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 80%、授業態度 20%
教科書・参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書: 歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション ・必要に応じて都度補足資料を配布
予習復習のアドバイス <p>予習: 講義内容に該当するページを事前によく読み、理解しておくこと。分からないことは、授業内で確認すること。</p> <p>復習: 学習内容を振り返り、理解を深めること。また、普段の生活に意識して取り入れ、スキルの向上を目指すこと。</p> <p>单元ごとの理解度チェックの問題をしっかりと行い、復習をすること。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間発達学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野 純子	実務経験	医療機関（リハ専門病院・大学病院）20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	人間の発達を理解することが、なぜ必要なのか、その必要性を認識するとともに歯科衛生士の役割を、認識し、適切に対応するための知識の整理・蓄積しておく。				
	到達目標				
	1 小児の各時期における発達課題や発達過程を理解し、説明できる。 2 小児の各機能の発達過程を理解し、説明できる。 3 発達の評価を理解することが出来る。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション 人の発達とは 生涯発達の理論				
2	発達の原則、生得要因と環境要因の相違について				
3	運動機能（粗大運動）の発達				
4	認知機能（感覚－知覚－認知、知能）の発達				
5	社会性の発達				
6	運動機能（微細運動）の発達				
7	自己同一性について				
8	ADL評価について				
講義方法 座学講義形式、資料をデータ配布します。					
講義で使用する機器・教材 配布資料、プロジェクター、iPad					
履修上の注意事項 資料は基本的にはデータでお渡しします。 教科書を必ず持参ください。					
成績評価方法 定期試験ならびに課題点、出席、授業態度で総合的に評価します。 成績は、下記の基準で評定する。 S(100点～90点)、A(89点～80点)B(79点～70点)、C(69点～60点)、D(59点以下)、S～Cは合格、Dは不合格とする。					
教科書・参考書 Cross Linkbasic リハビリテーションテキスト 人間発達学 メディカルビュー社					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	英語	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	蓬田優人	実務経験			
講義目標	一般目標				
	英文の基本的な構成要素と英文の構造について理解を深め、英文法の知識の習得				
	到達目標				
	英語をコミュニケーションのツールとして使えることを目指す。				
回数	講義内容				
1	be動詞、一般動詞				
2	過去形（be動詞、一般動詞）				
3	進行形（現在形、過去形）				
4	未来形－be going to. Will				
5	名詞（可算・不可算）、冠詞				
6	不定詞、動名詞				
7	接続詞				
8	現在完了形				
講義方法 テキストを用いて、プリント等による問題をすることで理解を確認しながら進める。					
講義で使用する機器・教材 大学英语『グラマー・プラス』					
履修上の注意事項 個々の英語をブラッシュアップするために、授業に辞書を用いることを必須とする。					
成績評価方法 筆記試験及び、授業に対する姿勢等による総合評価とする。					
教科書・参考書 【教科書】Grammar Plus Second edition					
予習復習のアドバイス 授業の前に、内容確認し分からないところを知る。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯科英語Ⅰ	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	国内外を含め、一般の歯科医院において日常的に利用される歯科英語を理解し、臨床において実際に使用できるようにする。				
	到達目標				
		①教科書をベースに、歯科英単語および用語の意味を理解し、暗記できる。			
		②英語を使って来院しようとする、あるいは来院した患者さんと基本的なコミュニケーションがとれる。			
回数	講義内容				
1	Unit1 電話の予約－Appointment－				
2	Unit2 受付にて：来院時と既往症－At the Reception Desk(1)－				
3	Unit3 治療前の指示－Before the Treatment(1)－				
4	Unit4 受付にて：治療後－At the Reception Desk(2)－				
5	Unit5 治療の経過－Before the Treatment(2)－				
6	Unit6 レントゲン撮影－Taking an X-ray－				
7	Unit7 歯の手入れ－Dental Care－				
8	Unit8 正しい歯磨き－How to Brush Your Teeth－				
講義方法 教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用方法やニュアンスを学びます。 歯科医院において広く使用されている英単語も多いので、日常臨床と合わせて学びます。 患者とのコミュニケーションに有用なセンテンスを学びます。					
講義で使用する機器・教材 教科書、プリント、ビデオ					
履修上の注意事項 暗記が必要な単語が沢山あります。用語と文章の予習・復習をこまめに行いましょう。					
成績評価方法 授業での履修態度と課題、および試験の成績によって評価を行います。					
教科書・参考書 【教科書】 歯科英語の練習帳－English for Dental Hygienists－ 萌文書林					
予習復習のアドバイス 教科書の内容を音声ファイルで視聴できます。授業開始までに、教科書の冒頭の説明に従って各Unitの音声ファイルをダウンロードし、視聴してください。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する器官を形態、構造、機能及び器官相互の位置関係について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・器官の系統的な分類を理解する。 ・人体の外形と構成を理解する。 ・器官の形態、構造、機能機関相互の位置関係を理解する。 				
回数	講義内容				
1	総論：解剖学の種類、人体の構成、用語 / 1. 骨格系（1）：構造、機能				
2	1. 骨格系（2）：体幹骨（胸郭、呼吸） / 上肢骨（鎖骨と頭蓋骨の関係等）				
3	1. 骨格系（3）：下肢骨（寛骨と腸骨、恥骨、坐骨の関係、骨盤の性差）				
4	2. 筋と運動（1）：構造と機能（筋の形状と分類、頭部、頸部、背部の筋）				
5	2. 筋と運動（2）：胸部、腹部、上肢、下肢				
6	3. 消化・吸収（1）：消化管の構造（口腔～食道、嚥下）				
7	3. 消化・吸収（2）：胃～大腸、肛門（肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜後器官）				
8	4. 循環（1）：血管系の概要（構造、血球、組織）・心臓・動脈				
9	4. 循環(2)：静脈系・リンパ系 / 胎児の循環				
10	5. 神経系（1）：概要・構成 / 中枢神経系				
11	5. 神経系（2）：末梢神経系				
12	6. 呼吸器系：上気道・下気道～肺				
13	7. 感覚：一般的性質、皮膚・粘膜・眼・耳				
14	8. 泌尿器系 /9. 生殖器系				
15	10. 内分泌系				

講義方法 教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。
講義で使用する機器・教材 プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型
履修上の注意事項 解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。
成績評価方法 試験評価80% 授業態度20%
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学 【参考書】プロメテウス解剖学アトラス (医学書院) / 人体の構造と機能(全10巻縮刷版)(日本医事新報社)
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	組織・発生学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってできた組織の構造と機能について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。 				
回数	講義内容				
1	歯の組織と名称 ※「口腔組織学」の内容				
2	細胞：細胞の構造、細胞の一生				
3	組織①種類と構成、上皮組織、支持組織、結合組織				
4	組織②骨組織				
5	組織③筋組織				
6	組織④神経組織				
7	発生①染色体と減数分裂,精子と卵子, 受精と着床				
8	発生②胚葉の形成/胎児の成長と発育				
講義方法 教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。					
講義で使用する機器・教材 プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型					
履修上の注意事項 解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。					
成績評価方法 試験評価80% 授業態度、提出物20%					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学					
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	1 年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3,4 時間目（6/8 は 3 時間目のみ）		
科目名	生理学	講義曜日	月曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	土谷昌広	実務経験	28年		
講義目標	一般目標				
	本科目では様々な生理機能と関連して、歯科衛生士として歯科医学を理解する上で必要な知識を身につけるだけでなく、顎口腔領域の専門家として、患者さんに対して説明できるレベルまで理解を深めることを目的とする。				
	到達目標				
脳をはじめとした神経系の機能について説明できる。筋による運動機能について理解する。消化、吸収、排泄の機序について理解する。腎臓の働きと体液の恒常性について理解する。					
回数	講義内容				
1	生理学とは？機能と形態・細胞と組織口				
2	遺伝子・骨格系と筋の働き、筋活動と電位				
3	筋反射と調節、疲労				
4	胃腸の機能・消化、排便				
5	栄養と味覚、糖代謝				
6	循環：体液・血液、心臓・血圧・脈拍				
7	血液成分・機能、血液凝固と溶解				
8	神経系：中枢、高次機能				
9	感覚：体性感覚、特殊感覚：皮膚				
10	特殊感覚：色覚・聴覚、感覚異常				
11	呼吸：呼吸器・内呼吸と調節、体内pHと恒常性				
12	泌尿器・排尿、体液と体温の恒常性				
13	内分泌：ホルモンの働き、内分泌：性ホルモンについて				
14	生殖器と性周期、更年期障害				
15	確認テスト、解説				

<p>講義方法 授業計画に従って、教科書を中心にして進めます。また、教科書の内容に関連した事項について、Powerpoint等を使用してプレゼンテーションします。講義日程の最後にテストを行い、理解度を確認します。</p>
<p>講義で使用する機器・教材 教科書とスライドによる説明 プリントの配布</p>
<p>履修上の注意事項 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。</p>
<p>成績評価方法 平常点(30%)と定期試験成績(70%)。</p>
<p>教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学</p>
<p>予習復習のアドバイス 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯の解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、三上眞、丹野雅仁	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 三上：大学病院に歯科技工士として42年間勤務 丹野：歯科医院、大学病院に歯科技工士として通算5年間勤務、歯科技工士養成校で教員として36年間勤務		
講義目標	一般目標				
	永久歯および乳歯の形態、表面構造、機能と歯種の鑑別について学び、説明できることを目的とする。				
	到達目標				
	①歯の名称、表示法、用語を理解し説明できる。 ②永久歯と乳歯の形態、表面構造と機能を理解し説明できる。 ③歯種の鑑別を理解し、説明できる。④正常な歯列と咬合を理解し、説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯の概論①				
2	歯の概論②				
3	永久歯①（特徴、前歯①）				
4	永久歯②（前歯②）				
5	永久歯③（小白歯①）				
6	永久歯④（小白歯②、大白歯①）				
7	歯型彫刻①（上顎中切歯①）（三上眞、丹野雅仁）				
8	歯型彫刻②（上顎中切歯②）（三上眞、丹野雅仁）				
9	永久歯⑤（大白歯②）				
10	乳歯①（乳前歯）				
11	乳歯②（乳臼歯）				
12	異常歯				
13	歯の配列と咬合関係				
14	歯型彫刻③（上顎第一大臼歯①）（三上眞、丹野雅仁）				
15	歯型彫刻④（上顎第一大臼歯②）（三上眞、丹野雅仁）				
16	歯型彫刻⑤（上顎第一大臼歯③）（三上眞、丹野雅仁）				

講義方法

教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、顎模型を用いて講義を行う。
石膏の棒を削り、上顎中切歯および上顎第一大臼歯を作成する。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター(PC連動)、配布プリント、歯牙模型
歯型彫刻時に使うものは、追って連絡する。

履修上の注意事項

歯の形態を知ることは、歯の清掃指導、歯頸部のスケーリング等に関して、非常に重要である。
歯の解剖学の学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。

成績評価方法

試験点数を70%。平常点10%。
歯型彫刻実習の配点は、20%とする。(出席点と製作物の提出点を基礎点とする)

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

【参考書】最新歯型彫刻 理論と実際 第2版 (医歯薬出版)/ 基礎から学ぶ 歯の解剖 (医歯薬出版)

予習復習のアドバイス

覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、授業後にも授業内容をしっかりと復習すること。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	口腔解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。				
	本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。				
	口腔解剖学の概要を学び、口腔の解剖について理解し、口腔を解剖学的側面から説明できる。				
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる様にする。				
回数	講義内容				
1	口腔の構成① 口唇、頬、歯肉、口蓋				
2	口腔の構成② 舌、唾液腺、咽頭				
3	頭蓋を構成する骨①				
4	頭蓋を構成する骨②				
5	頭蓋を構成する骨③				
6	頭頸部の筋と作用①				
7	頭頸部の筋と作用②				
8	頭頸部の筋と作用③				
9	顎関節				
10	口腔付近に分布する脈管系① 動脈系				
11	口腔付近に分布する脈管系② 動脈系				
12	口腔付近に分布する脈管系 静脈・リンパ系				
13	口腔付近に分布する神経系 脳神経①				
14	口腔付近に分布する神経系 脳神経②				
15	口腔付近に分布する神経系 自律神経系				

<p>講義方法 教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。</p>
<p>講義で使用する機器・教材 プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型</p>
<p>履修上の注意事項 口腔解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。 ※口腔組織学の7, 8回目に行う講義も、口腔解剖学のテスト範囲とする。</p>
<p>成績評価方法 試験評価80% 授業態度、提出物20%</p>
<p>教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 【参考書】プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部(医学書院)</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。</p>

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	口腔組織学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に 歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは、消化管の始まりの部分で、食物摂取・咀嚼・嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯・歯周組織・舌・唾液腺を備えている。				
	本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。				
	口腔組織発生学の概要を学び、歯と歯周組織の発生について理解し、それを説明できる。				
到達目標	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・歯と歯周組織の発生過程を理解する。 ・歯と歯周組織の構造と機能を説明する。 				
回数	講義内容				
1	顔面と口腔の発生①				
2	顔面と口腔の発生②				
3	歯と歯周組織の発生				
4	歯および歯周組織の構造と機能① エナメル質				
5	歯および歯周組織の構造と機能② 象牙質				
6	歯および歯周組織の構造と機能③ 歯髄・セメント質				
7	歯および歯周組織の構造と機能④ 歯槽骨・歯肉・歯根膜				
8	まとめ				
講義方法					
教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。					
講義で使用する機器・教材					
プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型					
履修上の注意事項					
口腔組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。					
成績評価方法					
試験評価80%					
授業態度20%					
教科書・参考書					
【教科書】歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					
【参考書】カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 井上貴央監訳(西村書店)					
予習復習のアドバイス					
教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目		
科目名	口腔生理学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	土谷昌広	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本科目では味覚をはじめとした口腔内の感覚、摂食運動と関連して筋収縮や運動制御、摂食嚥下の後に生体で行われる消化・吸収や排泄、さらに口腔が重要な役割を果たしている発声について学ぶ。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・味覚をはじめとした口腔内の感覚について説明できる。 ・筋による運動機能と摂食に関わる顎運動について理解する。 ・食物の消化、吸収、排泄、嚥下・発声の機序について理解する。 				
回数	講義内容				
1	歯の構造と機能・歯根膜感覚				
2	舌、粘膜などの機能・味覚・嗅覚				
3	咬合・咀嚼				
4	吸啜・摂食				
5	摂食障害と拒食症・嚥下・誤嚥				
6	発声・嘔吐・構音障害				
7	唾液：分泌と調節・口腔乾燥症				
8	確認テスト・復習				
講義方法 授業計画に従って、教科書を中心に進めます。また、教科書の内容に関連した事項について、Powerpoint等を使用してプレゼンテーションします。講義日程の最後にテストを行い、理解度を確認します。					
講義で使用する機器・教材 教科書とスライドによる説明 プリントの配布					
履修上の注意事項 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。					
成績評価方法 平常点(30%)と定期試験成績(70%)					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					
予習復習のアドバイス 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	生化学・口腔生化学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	立谷麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人体・口腔での生命現象を分子レベルの化学反応から理解するため、人体・口腔の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。				
	到達目標				
人体の構成要素、化学反応、物質の代謝、遺伝子とタンパク質合成、恒常性の維持について説明できる。歯と歯周組織、硬組織、唾液、プラークの生化学について説明できる。					
回数	講義内容				
1	試験（生化学）、解説				
2	歯と歯周組織の生化学				
3	硬組織の生化学				
4	唾液の生化学				
5	プラークの生化学①				
6	プラークの生化学②				
7	プラークの生化学③				
8	試験（口腔生化学）、解説				
講義方法 教科書をもとに、スライドを映しながら授業を進めます。 配布するプリントに穴埋めをしてください。 カラーペンなどで色分けすると、復習しやすいかと思えます。					
講義で使用する機器・教材 ①パソコン、プロジェクター ②教科書、配布プリント					
履修上の注意事項 生化学の試験と、口腔生化学の試験をそれぞれ行います。 授業の進行具合で試験日時が変更になる場合があります。					
成績評価方法 ①出席：2/3回以上は必ず出席することとします。 ②成績：試験が6割、出席点（授業態度を含む）が4割で計算し、生化学と口腔生化学の平均を最終評定とします。					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学					
予習復習のアドバイス 教科書と配布プリントをもとに学習を進めてください。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度		時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科		講義時間	3,4時間目(9/23は3時間目のみ)		
科目名	微生物学・口腔微生物学		講義曜日	金曜日	講義回数	15
			単位時間数	30	単位数	2
講師名	多田浩之		実務経験			
講義目標	一般目標					
	微生物学では病原微生物の生態、微生物-宿主関係ならびに感染症を理解し、免疫学では病原微生物に対する免疫応答を理解する。口腔微生物学ではう蝕と歯周病を中心に口腔感染症に関わる病原細菌の性状、病像と口腔免疫の特異性について理解する。					
	到達目標					
	歯科衛生士国家試験受験に必要な微生物学の基礎的な知識を身につけ、実際の臨床で遭遇する。 感染症ならびに免疫応答について説明できる。					
回数	講義内容					
1	微生物学の概要:微生物の世界 感染:感染の成立、感染の種類					
2	微生物学総論:細菌 微生物学総論:ウイルス、真菌					
3	微生物の培養、観察と検査:培養法、観察法、検査法 化学療法:化学療法薬、抗菌薬、抗真菌薬					
4	化学療法:薬物耐性、副作用、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬 消毒と滅菌:消毒法、滅菌法、標準予防策					
5	口腔環境:唾液、ペリクル、歯肉溝浸出液 口腔環境:口腔常在微生物					
6	プラーク:プラークの形成と成熟、バイオフィルム う蝕:発生機序、う蝕原性細菌、う蝕予防法					
7	歯周病:分類、歯周病原細菌、歯周組織の破壊、歯周病予防法 義歯性カンジダ症、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎、 インプラント周囲炎					
8	病原細菌:グラム陽性球菌					
9	病原細菌:グラム陽性桿菌、グラム陰性菌 病原細菌:スピロヘータ、マイコプラズマ、クラミジア、 リケッチア					
10	病原ウイルス:DNA/RNAウイルス、レトロウイルス、肝炎ウイルス その他の病原微生物:口腔カンジダ症、原虫感染症、プリオン					
11	免疫:免疫学概論					
12	免疫:自然免疫 免疫:抗原提示1					
13	免疫:抗原提示2 免疫:獲得免疫					
14	免疫:ワクチン 免疫:粘膜免疫、アレルギー					
15	免疫:自己免疫疾患、免疫寛容、免疫不全、移植免疫 病原微生物学の歴史					

講義方法

講義は教科書を中心に行い、適宜配布資料やスライドを用いて理解を深める。

講義で使用する機器・教材

iPadおよびプロジェクター

履修上の注意事項

微生物学・免疫学は講義内容が膨大である。講義内容は、高等学校「生物基礎」が基礎となるため、あらかじめ「生物基礎」の復習を行っておくことが望ましい。

成績評価方法

期末試験により評価する。

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版

予習復習のアドバイス

予習について: 次回の講義範囲について教科書を素読(声に出して読むこと)を行うことで、講義の理解が深まる。

復習について: 講義範囲が膨大であるため、講義中にとったノートを元に、教科書の情報を含めてまとめた「まとめノート」の作成を推奨する。

「まとめノート」は歯科衛生士国家試験の対策となるため、毎回欠かさずに予習と復習を継続することを推奨する。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026	時 期	通年	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目(予定表参照)		
科目名	薬理学・歯科薬理学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	中村卓史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	医薬品の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解し、歯科衛生士が歯科保健・歯科医療に携わるチームの一員として、歯科医療を安全に行うために必要な基本的知識を修得する。				
	到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬物の体内動態について理解する。 2. 薬物の副作用、有害事象について理解する。 3. 疾患発症と治療薬の薬理作用について理解し、安全に歯科医療を行うための注意点が説明できる。 					
回数	講義内容				
1	総論Ⅰ(医療と薬物)、薬物療法の種類、薬理作用の様式、薬理作用の基本形式、薬理作用の分類など				
2	総論Ⅱ(身体と薬物①) 薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄・パラメーター)				
3	総論Ⅲ(身体と薬物②) 薬物の適用方法、薬理作用に影響を与える因子(薬物の用量と作用・生体の感受性)				
4	総論Ⅳ(身体と薬物③) 薬物の連用、薬物の併用による相互作用、薬物の副作用・有害作用				
5	総論Ⅴ(身体と薬物④) ライフステージと薬物(小児・高齢者・妊婦・有病者への薬物投与)、服薬指導				
6	総論Ⅵ(薬物の取扱い) 剤型、処方箋、保存方法、総論Ⅶ(医薬品の分類) 薬機法、日本薬局方				
7	ビタミン・ホルモン				
8	末梢神経系に作用する薬物				
9	中枢神経系に作用する薬物、循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物				
10	呼吸器系、消化器系、血液に作用する薬物、免疫と薬物、悪性腫瘍と薬物、代謝性疾患治療薬				
11	炎症と薬・痛みと薬				
12	局所麻酔薬・抗感染症薬				
13	抗感染症薬、消毒に使用する薬				
14	消毒に使用する薬、う蝕予防薬、歯内療法薬				
15	歯周疾患治療薬、顎口腔粘膜と薬物				

講義方法

授業では、疾患発症機構を理解するために必要な生化学および生理学の知識を確認し、疾病治療に用いられる。

代表的治療薬の薬理作用機序、薬物動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱い・管理について説明し、薬理学に関する知識の吸収と論理的思考力の育成を目指します。

講義で使用する機器・教材

講義では、教科書を使用し、適宜、資料としてスライド素材を配布する。

履修上の注意事項

講義ノートをしっかり作成し、知識を整理する。

成績評価方法

学期末試験(100%)によって成績を評価する。

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 薬理学 第2版

予習復習のアドバイス

事前学習として、教科書の該当ページを熟読する。

講義中に分からなかった事があれば、その日か次回の講義の最後に質問をする。

講義ノートや配付資料を見直し、知識を整理する。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026(令和8)年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	衛生学・公衆衛生学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	岩倉政城	実務経験			
講義目標	一般目標				
	清潔な水と空気、そして衣食住、これが人間が健康に生きる基礎。それを脅かす環境汚染や貧困、そして地域紛争や戦争のない社会を、科学を拠り所に人々の智慧と制度で守り育てる方法を学びます。				
	到達目標				
人間集団の健康や不健康、疾病や障害を社会的視点でとらえ直します。その上で健康の保持や増進を社会集団を通じてどのように実現していくかを学びます。このような大きな視野を持った上で医療の一翼を担う歯科衛生士がどのように社会の健康に関わっていくかを考えましょう。					
回数	講義内容				
1	公衆衛生とは「公衆（みんなの）衛生(けんこう)」その対象は世界中の人々				
2	地球と人間(環境と健康) 大自然に抱かれていた人間はその自然の破壊者でもありうる				
3	環境汚染と人権 4大環境汚染 1.水俣病 環境汚染がなぜ「公害」と読み替えられたのか				
4	4大環境汚染 2.第2水俣病 3.イタイイタイ病 4.四日市ぜんそく 住民の闘いが食い止める				
5	衛生の諸指標（乳児死亡など）貧困の克服こそが衛生				
6	疫学 スノウ・ナイチンゲール 非科学と闘った医療者たち				
7	水と人間 水系伝染病 感染症と人権 人類が大河の側で栄えた理由				
8	成人病は生活習慣病に読み替えられ病気は個人の責任に メタボリックシンドローム				
9	親と子の健康 父を除外した「母子」保健からの脱却 乳幼児虐待と養育支援				
10	地域保健 保健所と地域保健センター（公衆衛生の自治体拠点）				
11	精神保健 ストレス要因 病院隔離から地域社会での療養・治癒への流れ				
12	高齢化とフレイル 少子化から世代間対立の克服まで				
13	学校保健 自己の身体と心への気付き(人権の発見) 人間の尊厳を育てる				
14	労働衛生 そして産業衛生 過労死の克服と労働者の権利				
15	国際衛生 難民・戦争、世界中で進行する貧困格差とその克服				

講義方法

配布プリントを主体に教科書を参照しながら行う。随時パワーポイントによる映像学習も。

15回連続の講師－学生間の交換式ミニレポート用紙に授業終了前に記入提出しそれを題材に次回講義に討論を行う。

配布プリントのミニ質問欄に記入し、みんなで考え、討論する。

講義で使用する機器・教材

配布プリント 交換式ミニレポート

スライド

ときにCDプレーヤー

履修上の注意事項

常時教科書を携行

配布プリントにあるミニ質問に記入し討論し合う。

授業終了前にミニレポート記入時間を設けるので記入する。この内容は次回講義時の討論で発表し合う。

成績評価方法

期末筆記試験で50%

交換ミニレポートの内容評価で30%

出席と発表討論参加で20%

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 保健生態学

予習復習のアドバイス

自分の健康に関する体験を振り返り、母子手帳を手元に置いて生い立ちの中で受けた公衆衛生の恩恵を振り返る。

コロナ下での登校抑制、親族高齢者の要介護、同級生の不登校など身近な経験から公衆衛生の眼を養おう。

こうした具体的な体験をミニレポートで書くよう心がけよう。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4, 5時間目		
科目名	病理学・口腔病理学	講義曜日	水曜日	講義回数	(90分+45分) × 10回
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤悠、佐々木優	実務経験			
講義目標	一般目標				
	病理学は病気の原因と病気によって起きる変化について明らかにする学問である。口腔疾患における診断・治療・予防に必須な病理学的知識を習得を目標とする。				
	到達目標				
病理学総論では全身の臓器に現れる同じ種類の疾患の総合的理解を、口腔病理学では歯と歯周組織、口腔粘膜、唾液腺、顎骨、顎関節に起こる病変を正しく理解することを目標とする。					
回数	講義内容				
1	病理学序論と病因論(齋藤悠)				
2	遺伝性疾患と先天異常(齋藤悠)				
3	循環障害(齋藤悠)				
4	代謝障害(齋藤悠)				
5	退行性病変(齋藤悠)				
6	増殖と修復(齋藤悠)				
7	炎症(齋藤悠)				
8	免疫応答異常(齋藤悠)				
9	腫瘍①(齋藤悠)				
10	腫瘍②(齋藤悠)				
11	歯の発育異常(佐々木優)				
12	歯の損傷と着色・付着物(佐々木優)				
13	口腔粘膜の病変(齋藤悠)				
14	口腔領域の嚢胞と腫瘍(齋藤悠)				
15	口腔癌・顎骨の病変(齋藤悠)				
16	唾液腺病変(齋藤悠)				
17	う蝕・象牙質歯髄複合体の病態(佐々木優)				
18	歯周組織の病態(佐々木優)				
19	口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化(佐々木優)				
20	筆記試験(佐々木優)				

講義方法

スライドを使って教科書の完全理解に努める。適宜、講義時間を使って、習熟度のテストを行う。

講義で使用する機器・教材

スライド・資料(過去の国家試験問題など)

履修上の注意事項

あらかじめ、教科書を読んで予習して、授業に臨むよう希望する。

成績評価方法

筆記試験により評価

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学

予習復習のアドバイス

教科書を何度も通読することを勧めます。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	口腔衛生学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	小関健由	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔保健推進の重要性を患者や社会に向けて発信する歯科衛生士になるために、口腔保健・歯科医療の幅広い学問領域全体を俯瞰的に把握し、この領域の専門知識やその相互関係を理解するために必要な基本的知識・態度を身に着ける。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔保健の重要性を患者や社会に向けて説明できる。 ・口腔の疾病・障害のメカニズムと治療法の概略を説明できる。 ・各ライフステージにおける口腔管理と疾病予防法の概要を説明できる。 				
回数	講義内容				
1	口腔保健概論				
2	歯・口腔の健康				
3	歯・口腔の構造と機能(1)				
4	歯・口腔の構造と機能(2)				
5	歯・口腔の付着物・沈着物(1)				
6	歯・口腔の付着物・沈着物(2)				
7	口腔疾患の疫学				
8	口腔清掃				
9	う蝕の予防				
10	フッ化物によるう蝕予防（1）				
11	フッ化物によるう蝕予防（2）				
12	歯周疾患の予防				
13	口臭				
14	その他の疾患・異常の予防				
15	口腔衛生学のまとめ				

講義方法

基本的に教科書に沿って授業が進行する。質問は授業中に受け付ける。

講義で使用する機器・教材

授業に教科書は必ず持参すること。

履修上の注意事項

予習・復習は学習効率から必須ですので、しっかり取り組むこと。

成績評価方法

期末試験により、授業の理解と知識の定着を評価(80%)し、更に、出席状況、授業態度を評価する(20%)

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 保健生態学

予習復習のアドバイス

授業中に授業内容を完全に理解するために、授業前の教科書の予習により内容を把握し、さらに授業後は復習にて知識の定着を図ること。

歯科衛生士向けの専門雑誌から現在のトピックを把握すると、授業の深い理解に繋がると思われる。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	通年	学 年	1 学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科衛生学総論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	押野まみ、渡辺真輝、 加藤美智子、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	①歯科衛生士の業務内容・歴史・職域・関係法規および保健・医療・福祉の概要を理解する。 ②医療職として倫理的な考え方を学び、必要な知識、技術、姿勢を理解する。				
	到達目標				
①歯科衛生士の現況を理解し、職域・歴史・関連法規について概説できる。 ②医療安全や医療倫理について理解できる。 ③多職種連携・職能団体の意義・キャリア形成について説明できる。					
回数	講義内容				
1	序章 歯科衛生学を学ぶにあたって				
2	1章 歯科衛生学とは				
3	2章 歯科衛生の歴史と現状				
4	3章 歯科衛生と健康				
5	4章 歯科衛生士法と関連する法規				
6	5章 歯科衛生士と倫理				
7	6章 歯科衛生実践の理論				
8	7章 歯科衛生実践の展開				
9	8章 医療安全確保における歯科衛生士の役割				
10	9章 保健・医療・福祉制度と多職種連携				
11	10章 災害ときにおける歯科衛生活動				
12	11章 歯科衛生士の国際化				
13	12章 組織活動				
14	13章 歯科衛生士のキャリア形成				
15	総括				

講義方法 講義、演習、グループディスカッション
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物
履修上の注意事項 1、歯科衛生学総論教科書を必ず持参すること。 2、配布資料は国家試験が終わるまで無くすことのないようにすること。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・科目試験で総合的に評価する。
教科書・参考書 最新 歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修
予習復習のアドバイス ファイルを準備し、配布資料やノートは整理し保管しましょう。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	歯科臨床概論	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原紳	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療全般について概要を説明する。 歯科医療従事者の種類、それら相互のかかわりを説明する。				
	到達目標				
	1. 歯科衛生士として歯科診療全般について説明できる。 2. 歯科診療環境、診療機器、業務環境および内容について説明できる。 3. 各歯科診療分野ごとの診療対象、使用機器について説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯科診療施設の概要・構成員				
2	歯科診療の業務内容・診療項目				
3	歯科診療における診査・検査項目				
4	年齢別歯科診療項目の変化・治療機器				
5	成長期における歯科診療（小児歯科・矯正歯科）・歯科予防関連				
6	歯科口腔外科				
7	いわゆる一般的歯科治療（う蝕治療、歯の欠損に対する処置）				
8	歯科診療における経費				
講義方法 板書・スライド ・基本的にプリント配布はしません。					
講義で使用する機器・教材 ・教科書 ・スライドプロジェクター					
履修上の注意事項 ・板書のノートへの筆記を原則とします。 ・講義で使用したスライドのプリント配布はしません。					
成績評価方法 平常点、出席日数、筆記試験の結果を総合的に評価します。					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版					
予習復習のアドバイス ・毎回講義ごとに次回の講義範囲を示します。あらかじめ予習してください。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	歯内療法学	講義曜日	金曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	根本英二	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯髓疾患ならびに根尖性歯周組織疾患の原因および病態形成機構について理解する。さらに歯内疾患の成立機構と病態に基づいた治療の考え方、診断及び治療法を修得する。				
講義目標	到達目標				
	象牙質・歯髓の常態、同組織に生じる疾患およびその治療の進め方を理解する。 ① 歯髓の構造と機能を説明できる。 ② 歯髓・根尖性歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 ③ 歯髓・根尖性歯周組織疾患の症状を説明できる。 ④ 歯髓・根尖性歯周組織疾患の診断および治療法を説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯内療法の概要（歯の痛み、象牙質知覚過敏症）				
2	歯髓疾患の診査・診断				
3	歯髓保存療法と除去療法				
4	根尖性歯周炎の診査・診断				
5	根管治療の術式1				
6	根管治療の術式2、根未完成歯の根管処置				
7	外科的歯内療法、変色歯の漂白法				
8	歯の外傷、歯内療法における偶発症				
講義方法					
講義資料に沿って授業を進め、必要に応じて関連資料をスライドで提示する。					
講義で使用する機器・教材					
教科書およびスライドを使用する。講義資料は事前に配布する。					
履修上の注意事項					
欠席や遅刻は講義内容の理解に影響を及ぼすため、原則として出席すること。					
成績評価方法					
定期試験の成績を中心に、授業への出席状況を参考にして評価する。					
教科書・参考書					
【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 （医歯薬出版）					
予習復習のアドバイス					
予習として、事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	保存修復学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	兼平正史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯の硬組織疾患の種類とその病態の把握および検査法、疾患の診断と処置方法、修復に必要な前準備等の総括的事項の習得、コンポジットレジン修復、セメント修復、漂白法、インレー修復、接着材等の理論と術式について学び、保存修復における歯科衛生士の役割を学ぶ。				
	到達目標				
		保存修復学の意味と概要を理解し、各種修復法の理工学的性質と修復法を習得する。			
回数	講義内容				
1	歯の保存療法とは、歯の保存療法の種類、歯の検査法 P.1 – P.13				
2	保存修復の概要、歯の硬組織疾患の種類と病態、窩洞 P.15 – P.31				
3	保存修復法の種類、保存修復治療の準備、歯の切削、歯髄保護 P.32 – P.45				
4	直接法修復、コンポジットレジン修復 P.46 – P.60				
5	セメント修復、歯の漂白 P.61 – P.78				
6	間接法修復、メタルインレー、レジンインレー P.79 – P.91				
7	CAD/CAMインレー、ラミネートベニア修復、合着材および接着材 P.92 – P.105				
8	補修修復、保存修復における歯科衛生士の役割 P.106 – P.116				
講義方法 講義はプロジェクターを用いて対面形式で行います。 授業中に使用するスライドはプリントにて配布予定 授業開始時または途中で前回内容の復習テストを行い、理解の確認を行います。					
講義で使用する機器・教材 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学					
履修上の注意事項 授業前または授業中に前回の復習テストを行います。 授業内容についての予習・復習が必要です。					
成績評価方法 定期試験(100点)					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学					
予習復習のアドバイス 授業予定の教科書の箇所を一読し、授業に臨んでください。 授業スライドプリントに書き込みを行い、復習に使ってください。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯科補綴学	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原紳	実務経験			
講義目標	一般目標				
	・歯科補綴処置の適応症、治療方法、製作法、メンテナンスを示す。				
講義目標	到達目標				
	・歯科補綴法について説明できる。 ・歯科補綴後のメンテナンスについて説明できる。				
回数	講義内容				
1	歯科補綴法の概要				
2	歯科補綴に関する基礎知識				
3	咬合、顎機能の知識と検査方法				
4	歯科補綴治療の実際・使用機器・材料：間接法				
5	クラウンブリッジ補綴				
6	部分床義歯				
7	全部床義歯				
8	インプラント法				
講義方法					
・板書、スライド、模型を示す。					
講義で使用する機器・教材					
・PC、液晶プロジェクタ ・補綴治療で使用する機器は持参します。					
履修上の注意事項					
・講義は基本的に板書しますので、ノート記入すること。					
成績評価方法					
平常点、出席日数、筆記試験結果を総合的に判断					
教科書・参考書					
【教科書】歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学					
予習復習のアドバイス					
毎講義後、次回講義範囲を示しますので、予習してください。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	口腔外科学	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	江副祐史、森島浩允、 梶田倫功、柳沢佑太	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔外科学の観点を理解し、基礎となる知識を習得する。				
	到達目標				
	口腔外科治療の対象となる疾患を理解し、治療方法を説明できる。				
回数	講義内容				
1	全身疾患（柳沢佑太）				
2	口腔外科学総論・インプラント（森島浩允）				
3	良性腫瘍。嚢胞（柳沢佑太）				
4	顎顔面の外傷（森島浩允）				
5	顎関節疾患、神経疾患（梶田倫功）				
6	先天異常および後天異常（梶田倫功）				
7	口腔粘膜疾患（江副祐史）				
8	歯・歯槽および周辺組織の外科（江副祐史）				
9	顎口腔の炎症（森島浩允）				
10	悪性腫瘍（柳沢佑太）				
講義方法 第一回での講義で総論を示し、2回目以降より、各疾患の定義、治療方法について説明します。					
講義で使用する機器・教材 視聴覚教材として、ビデオやPCを利用する。 適宜資料としてプリントを配布する。					
履修上の注意事項 講義時間内での、記録の整理(情報収集と処理)をするように集中すること。					
成績評価方法 学期末試験(100%)によって成績を評価する。					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 【参考書】 白砂兼光、古郷幹彦（編）”口腔外科学” 第3版					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目(予定表参照)		
科 目 名	小児歯科学	講義曜日	水、木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	小松偉二	実務経験	東北大学大学院歯学研究科に教員として16年勤務、一般歯科に歯科医師として12年勤務		
講義目標	一般目標				
	小児歯科の特徴と小児歯科診療の目的を理解する。				
	到達目標				
小児の心身の発育、歯列、咬合の発育、小児の口腔にみられる疾患(特にう蝕と歯周疾患)に関する知識を習得する。					
回数	講義内容				
1	小児歯科学概論。心身の発達、小児の生理的特徴				
2	顔面頭蓋の発育。歯・歯列・咬合の発育とその異常				
3	小児の歯科疾患。小児虐待				
4	小児期の特徴と歯科的問題点。小児歯科における患者との対応法				
5	小児歯科における診療体系				
6	障害児の歯科治療				
7	う蝕予防				
8	小児の口腔健康管理。歯科診療室と器材の管理				
講義方法 教科書に沿ってすすめる。					
講義で使用する機器・教材 教科書 プリント					
履修上の注意事項 講義には必ず教科書を持参すること。					
成績評価方法 筆記試験 出席状況					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）					
予習復習のアドバイス 予習として事前に教科書に目を通すこと及びその日の講義内容を復習することでより理解を深めていく事が望ましい。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	実習指導教育Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子、押野まみ、 加藤美智子、渡辺まき	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士の社会的役割を理解し、対象者に応じたコミュニケーションの基礎と、口腔健康管理の重要性を普及啓発する態度を養う。				
	臨地実習の目的と意義を理解し、歯科診療所における実習に臨むための基本的な知識、技能、および医療人としての適切な態度(接遇・倫理)を習得する。				
	到達目標				
歯と口の健康週間」の意義と目的および、地域住民に対する歯科衛生士の役割を説明できる。自分の役割を理解し、周囲と協力して必要な準備、運営を行って出来る。					
臨地実習の目的を理解し、臨地実習に臨むために必要な準備、行動が出来る。実習生としてふさわしい態度、ルールを習得し、実習書記載、自己管理が出来る。					
回数	講義内容				
1	歯と口の健康週間 市民のつどいについて				
2	歯と口の健康週間 市民のつどい参加				
3	臨地実習について 心構え 実習地発表と交通手段 プロフィール作成 誓約書の記入				
4	実習記録の書き方 実習地への電話のかけ方、受け答え				
5	記録の記入方法 P検 歯式 略語				
6	症例報告の方法				
7	臨地実習のまとめ 報告会準備 お礼状の書き方				
8	症例報告会				
講義方法					
講義 スライド 関係資料 演習					
講義で使用する機器・教材					
各種教科書 プリント おしごとハンドブック 指示のあったもの					
履修上の注意事項					
遅刻・欠席・早退をしないように意欲的に臨むこと。 予め準備をし、忘れ物をしないように注意すること。 実習指導教育Ⅰに付随して行われる実習指導にも必ず出席すること。					
成績評価方法					
出席状況、受講態度、提出物、試験、症例報告 で総合的に評価する。					
教科書・参考書					
各種教科書 プリント おしごとハンドブック					
予習復習のアドバイス					
講義の目的を把握する。予定や資料を確認すること。					

講義要項（シラバス）シート

年度	令和8年度	時期	前期	学年	1
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅰ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	土門ひと美、押野まみ、 渡辺真輝、加藤美智子	実務経験	押野：歯科医院に7年間勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科予防処置についての概念と基本的な知識・技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯科予防処置について（う蝕・歯周病・フッ化物の応用等）の概要と基礎知識を理解する。 ②歯周治療の方法を理解し歯周組織検査や治療に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ③歯周診査用器具を正しく操作する。				
回数	講義内容				
1	歯科予防処置論の概要 歯科予防処置とは p2～p14				
2	口腔の基礎知識 用語・歯式・口腔の構造と機能 p16～p27				
3	う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物、歯周病とは p28～p43				
4	歯周診査用器材について 器材配布・使用目的・管理・小豆つかみ実習				
5	歯周診査用器材の基本操作 姿勢・ポジション、把持・操作方法				
6	口腔内の情報収集① 口腔内の観察、実習オリエンテーション				
7	口腔内の観察 相互実習				
8	口腔内の観察 相互実習				
9	口腔内の情報収集② 検査 プローブ、エキスプローラーの基本操作				
10	プロービング、エキスプローリング実習(顎模型上)				
11	う蝕と歯周病の基礎知識 う蝕とは p32～38 土門				
12	う蝕と歯周病の基礎知識 う蝕に関する指標と検査 p140～154 土門				
13	フッ化物応用によるう蝕予防法① フッ化物歯面塗布 p206～217 土門				
14	フッ化物応用によるう蝕予防法② フッ化物洗口 p217～224 土門				
15	フッ化物応用によるう蝕予防法③ フッ化物配合歯磨剤、急性中毒への対応 p224～236 土門				

講義方法

- ①講義：教科書、パワーポイント、プリントを利用し内容の理解を促す。
- ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：感染対策に考慮しながら自己または相互の口腔内で実習を行う。

講義で使用する機器・教材

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版、顎模型、石膏柱、基本セット、マネキン、パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

- ①遅刻や欠席をせず、歯科予防処置論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。
- ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。
- ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかりと行い授業に臨んでください。

成績評価方法

授業への出席を前提として筆記試験の結果により評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

講義要項（シラバス）シート

年度	令和8年度	時期	後期	学年	1
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅰ-Ⅱ（歯周）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30/60	単位数	1単位
講師名	笠原江利子、押野まみ、 渡辺真輝、加藤美智子	実務経験	押野：歯科医院に7年間勤務		
講義目標	一般目標				
	実習を通して、口腔疾患予防のための専門的知識・技術を習得し、患者へ一連の流れに沿った対応ができる技能を身につける。				
	到達目標				
	①実習で一連の流れに沿った処置と対応を身につける。 ②シックル型スケーラーの種類・特徴・使用方法を理解する。 ③スケーリング技法に必要な器具の把持法や適切なポジショニングを理解し、シックルスケーラーの基本操作を身に付ける。 ④PMTC・エアフローの目的を理解し、手技方法を身につける。				
回数	講義内容				
1	PMTC・エアフロー 講義 バイオフィルムとは p196～206				
2	PMTC・エアフロー 実習（顎模型上）				
3	歯周治療の基礎実習① 姿勢、ポジション、シックルスケーラーの構成、使用目的				
4	歯周治療の基礎実習② 操作方法 前腕回転運動、手根関節運動、手指屈伸運動				
5	歯周治療の基礎実習③ 操作方法 3種の運動、連続運動				
6	シックルスケーラー マネキン実習 下顎前歯				
7	シックルスケーラー マネキン実習 上顎前歯				
8	シックルスケーラー マネキン実習 下顎臼歯				
9	シックルスケーラー マネキン実習 上顎臼歯				
10	相互実習オリエンテーション				
11	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
12	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
13	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨（0.5コマ）				
14	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
15	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨				
16	相互実習 歯周組織検査、スケーリング、歯面研磨（0.5コマ）				
17	実習振り返り、まとめ				

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイント、プリントを利用し、内容の理解を促す。
- ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策に考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版、顎模型、石膏柱、基本セット、マネキン、スケーラ（シッケル）、PMTC器材、プロジェクター、パワーポイント、配布印刷物

履修上の注意事項

- ①遅刻や欠席をせず、歯科予防処置論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。
- ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。
- ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかり行い授業に臨んでください。

成績評価方法

出席状況、受講態度、提出物、筆記試験、実技、身だしなみ項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

講義要項（シラバス）シート

年度	令和8年度	時期	後期	学年	1
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅰ-Ⅱ（う蝕予防）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30/60	単位数	1単位
講師名	土門ひと美、小松偉二、押野まみ、 渡辺真輝、加藤美智子	実務経験	押野：歯科医院に7年間勤務		
講義目標	一般目標				
	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①フッ化物歯面塗布法の術式を説明できる。				
	②フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。				
	③う蝕活動性試験の目的・種類を説明できる。				
④う蝕活動性試験を実施できる。					
⑤対象者のう蝕活動性を評価、問題点を列記しう蝕予防プログラムを立案できる。					
⑥小窩裂溝填塞法の種類と特徴を理解できる。⑦小窩裂溝填塞法の術式を説明できる。					
回数	講義内容				
1	カリオロジー学 土門				
2	フッ化物の応用 p 206～231 フッ化物の基本、薬剤、保管方法など 土門				
3	フッ化物の応用 p 206～231 歯面塗布の術式、洗口法、フッ化物配合歯磨剤について土門				
4	フッ化物の応用 p 231～234 フッ化物の毒性と急性中毒への対応 土門				
5	フッ化物の応用 p 234～236 ライフステージ別のフッ化物局所応用 土門				
6	フッ化物の応用 フッ化物洗口・フッ化物歯面塗布法（綿球法・トレー法）の術式と注意点 押野				
7	唾液・プラーク 土門				
8	う蝕に関する検査(カリエスリスクテスト)① p 140～152 う蝕活動性試験の意義・条件・目的 土門				
9	う蝕に関する検査（カリエスリスクテスト）② 実習のオリエンテーション 押野				
10	う蝕活動性試験の実際③RDテスト・SM・LB・CAT21test・緩衝能・唾液分泌量（相互実習）押野				
11	う蝕活動性試験の実際④RDテスト・SM・LB・CAT21test・緩衝能・唾液分泌量（相互実習）押野				
12	う蝕活動性試験の実際⑤検査結果の評価 押野				
13	う蝕活動性試験の実際⑥まとめ（講義） 土門				
14	小窩裂溝填塞法① p 236～242 適応歯と種類、術式、注意点など 小松 押野 補助DH(横澤、山本)				
15	小窩裂溝填塞法② 術式の実際（マネキン実習） 小松 押野 補助DH（横澤、山本）				
16	科目試験振り返り、まとめ 土門				

講義方法

- ①講義：教科書、パワーポイント、プリントを利用し内容の理解を促す。
- ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：感染対策に考慮しながら自己または相互の口腔内で実習を行う。

講義で使用する機器・教材

(講義) P C、プロジェクター、配布印刷物
(実習) マネキン、顎模型、基本セット (ミラー、ピンセット等)、簡易防湿 (コットンロール等)、フッ化物塗布器材一式、カリエスリスク検査器材一式、ラバーダム・シーラント器材一式

履修上の注意事項

- ①遅刻や欠席をせず、歯科予防処置論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。
- ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。
- ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかりと行い授業に臨んでください。

成績評価方法

授業への出席を前提として筆記試験の結果により評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1学年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導論Ⅰ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	24
		単位時間数	45	単位数	3
講師名	渡辺真輝、加藤美智子、 押野まみ、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔の健康を維持管理し、口腔に対する保健意識の向上に関わる知識および技術を理解する。				
	到達目標				
	口腔保健の重要性を理解し概念を理解する。 歯科保健指導や健康教育に必要な基本的な知識と技術を身につける。				
回数	講義内容				
1	総論 p9-				
2	保健行動支援のための基礎知識 p45-				
3	保健行動視線のための基礎知識 演習 実習室				
4	歯科保健指導の基礎 自分の口腔内観察 実習室				
5	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 p90-103				
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 演習 実習室				
7	口腔衛生状態の指標 OHI OHI-S PHP				
8	対象別歯科衛生介入 思春期・青年期・成人期				
9	対象別歯科衛生介入 思春期・青年期・成人期 症例検討				
10	対象別歯科衛生介入 妊産婦期				
11	対象別歯科衛生介入 妊産婦期 症例検討				
12	対象別歯科衛生介入 乳児期				
13	対象別歯科衛生介入 乳児期 症例検討				
14	口腔衛生管理にかかわる指導3				
15	口腔衛生管理にかかわる指導3 演習				
16	対象別歯科衛生介入 学齢期				
17	歯科衛生過程の進め方				
18	口腔ケア用品				

19	1.3学年合同演習
20	1.3学年合同演習
21	1.3学年合同演習
22	学校歯科保健 ポピュレーションアプローチ
23	学校歯科保健 集団指導資料作成
24	学校歯科保健 集団指導資料作成
講義方法 教科書・スライド・プリント・講義・実習	
講義で使用する機器・教材 教科書 講義内容により追加あり。	
履修上の注意事項 遅刻・欠席をしないように、自己管理をおこなう。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意する。	
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導 全国歯科衛生士教育協議会監修	
予習復習のアドバイス 予習・復習し自ら意欲的に学習する。	

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	通年	学 年	1 学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	保健指導論 1-2	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	渡辺真輝、加藤美智子、 押野まみ、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標 健康増進を維持管理するために、自己および対象者に対して応用できる歯科保健指導の知識、技術態度を習得する。				
	到達目標 歯科保健指導の概要、目的、意義を説明できる。 ライフステージ・対象者ごとの特徴を理解する。 自己および対象者の健康維持のための基礎知識や技術を習得する。				
回数	講義内容				
1	学校歯科保健1.2年生合同 発表見学				
2	口腔衛生管理にかかわる指導1 ブラッシング・ブラッシング方法				
3	口腔衛生管理にかかわる指導1 ブラッシング・ブラッシング方法 演習				
4	口腔衛生管理にかかわる指導1 演習				
5	口腔衛生管理にかかわる指導1 演習				
6	口腔衛生管理にかかわる指導2 補助用具				
7	口腔衛生管理にかかわる指導2 自習法				
8	口腔衛生管理にかかわる指導2 顎模型				
9	口腔衛生状態の指標 p126-				
10	電動歯ブラシの種類と特徴				
11	口腔衛生状態の指標 綿球塗布法				
12	口腔衛生状態の指標 綿球塗布法				
13	口腔衛生状態の指標 綿球塗布法				
14	実技試験				
15	実技試験				
16	実技試験				

講義方法

教科書・スライド・プリント・講義・実習

講義で使用する機器・教材

教科書

講義内容により追加あり。

履修上の注意事項

遅刻・欠席をしないように、自己管理をおこなう。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意する。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

予習・復習し自ら意欲的に学習する。

講義要項（シラバス）シート					
年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	笠原江利子、加藤美智子、加藤礼子、押野まみ、渡辺真輝	実務経験			
講義目標	一般目標 歯科診療補助の基礎知識と技術を学び、身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標 歯科診療補助および歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				
回数	講義内容				
1	歯科診療補助の概念 医療安全と感染予防				
2	滅菌と消毒				
3	実習の心得（身だしなみ 実習室の使い方 実習室当番の仕事 清掃 日誌の書き方等）基本セット				
4	手指衛生 PPEの着脱 各電源とユニット オートクレープの取り扱い				
5	各種印象材 患者対応 Aアルジネート印象材練和 Bユニットへの患者誘導 配慮を必要とする患者				
6	各種印象材 患者対応 Aアルジネート印象材練和 Bユニットへの患者誘導 配慮を必要とする患者				
7	印象採得（顎模型） Aアルジネート印象材片顎概形印象採得 Bシリコーンゴム印象材片顎精密印象採得				
8	印象採得（顎模型） Aアルジネート印象材片顎概形印象採得 Bシリコーンゴム印象材片顎精密印象採得				
9	印象採得 石膏の取り扱い A寒天・アルジネート連合印象採得 B石膏模型模型作成				
10	印象採得 石膏の取り扱い A寒天・アルジネート連合印象採得 B石膏模型模型作成				
11	確認テスト シラバス1～10（演習含む）				
12	確認テスト シラバス1～10（演習含む）				
13	合着材・接着材の補助 A合着材の取り扱い B接着剤の取り扱い				
14	合着材・接着材の補助 A合着材の取り扱い B接着剤の取り扱い				
15	ラバーダム防湿 簡易防湿 綿球 綿栓				
16	成形歯冠修の補助 成形歯冠修復の取り扱い				
17	その他の材料義歯関係、ワックス				
18	仮封・仮着の補助 仮封仮着の取り扱い				

19	共同動作の基本と患者対応 Aポジショニング ライティング B器具の受け渡し
20	共同動作の基本と患者対応 Aポジショニング ライティング B器具の受け渡し
21	共同動作の基と本患者対応 Aバキューム シリンジ操作(マネキン) B患者誘導 ユニットの準備・清掃 フラッシング
22	共同動作の基本と患者対応 Aバキューム シリンジ操作(マネキン) B患者誘導 ユニットの準備・清掃 フラッシング
23	共同動作の基本と患者対応 A相互実習に向けた動作確認 B バキューム シリンジ操作(マネキン)
24	共同動作の基本と患者対応 A相互実習に向けた動作確認 B バキューム シリンジ操作(マネキン)
25	共同動作の基本と患者対応 A相互実習 口腔内観察洗浄 バキューム ライティング B器具器材の名称用途
26	共同動作の基本と患者対応 A相互実習 口腔観察内洗浄 バキューム ライティング B器具器材の名称用途
27	共同動作の基本と患者対応 A相互実習 口腔観察内洗浄 バキューム ライティング B器具器材の名称用途
28	共同動作の基本と患者対応 A相互実習 口腔内観察洗浄 バキューム ライティング B器具器材の名称用途
29	歯科診療補助 まとめ
30	歯科診療補助 まとめ
講義方法 教科書、スライド、プリント、実習	
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します	
履修上の注意事項 欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。私語はしない。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。実習では身だしなみを整え、感染防止に努めること。忘れ物をしないように注意してください。	
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。	
教科書・参考書 歯科診療補助 歯科材料 歯科機器 指示のあったもの 参考:おしごとハンドブック 各専門科目の教科書	
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して予習復習すること。 専門用語は調べたり質問をし、分からない文字は読めるようにしておいてください。	

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	感染予防学	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	遠藤英昭	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助の際に必要な感染予防の基礎的知識、技術および管理方法を習得する。				
	到達目標				
	①患者および診療従事者に対して感染への配慮ができる。				
	②診療用器材・設備に対して感染へ配慮した使用法や維持・管理ができる。				
③感染予防対策、廃棄物管理などができる。					
④薬剤や器械などに滅菌・消毒へ配慮した準備・操作・管理ができる。					
⑤感染性疾患を理解し、感染予防を実践することができる。					
回数	講義内容				
1	感染の成立と院内感染（感染症概論・法規など）				
2	感染の標準予防策（スタンダードプリコーション）				
3	滅菌・消毒の概念と手段（方法、消毒薬、抗菌スペクトル）				
4	歯科器材の滅菌・消毒（技工物の取り扱いを含む）				
5	医療廃棄物の取り扱い（法令と具体的取り扱い）				
6	針刺し切創・血液体液曝露事故（予防策・曝露後の対応法）				
7	歯科医院の感染対策（院内感染対策ガイドライン）				
8	歯科で重要な感染性疾患（肝炎・HIVなどの感染症）				
講義方法					
講義で使用する機器・教材					
履修上の注意事項					
成績評価方法					
教科書・参考書					
【教科書】歯科医療における国際標準感染予防対策テキスト 滅菌・消毒・洗浄					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目		
科目名	歯科材料学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高田雄京	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科技工や歯科医療の現場で取り扱う様々な歯科材料の物理的性質、化学的性質、生物学的性質などを学習し、歯科医療に必要な歯科材料の基本知識を習得する。 さらに、歯科医療で用いられる機器の種類や歯科材料を含めたこれらの使用方法、用途、特性などを理解する。				
	到達目標				
	歯科材料や歯科用機器の臨床における使用目的、使用方法、用途、特性を理解し、歯科臨床の現場で適切に応用できる基礎知識を身に着ける。				
回数	講義内容				
1	歯科材料学総論（歯科材料の種類と基本性質）				
2	印象材の種類、用途、性質（ハイドロコロイド系印象材：アルジネート印象材と寒天印象材）				
3	印象材の種類、用途、性質（ゴム質系印象材：シリコーンゴム印象材）				
4	模型材料の種類、用途、性質（歯科用石膏）				
5	合着材・接着材の種類、用途、性質				
6	成形歯冠修復材の種類、用途、性質				
7	仮封・仮着材の種類、用途、性質				
8	その他の材料の種類、用途、性質（即時重合レジン、コンパウンド、ワックス）				
講義方法					
教科書、プリント、スライドを使用した座学形式の講義					
講義で使用する機器・教材					
教科書中心に講義するが、項目ごとに資料(または、タブレット用PDF)を配布する。講義ノートを準備すること。また、講義資料をまとめるバインダーなどが必要。					
履修上の注意事項					
講義ごとに資料を配布するので、必ずファイルして保存すること。 また講義内容で重要と思われる部分をメモする習慣をつけること。演習を行うので復習すること。 欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。教科書、プリント、筆記用具、メモの準備をすること。					
成績評価方法					
出席状況・受講態度・提出物・定期試験（60点以上を合格）					
教科書・参考書					
【教科書】 歯科診療補助論 第2版 歯科材料 歯科機器					
予習復習のアドバイス					
内容の理解を深めるため、復習を中心に行い、演習がある場合には演習の復習も行うよう心がける。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	情報処理	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	丸山千恵	実務経験			
講義目標	一般目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを利用し、日常業務の問題解決の手法を修得する。 ・パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。 				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会の中で、パソコンを日常業務の道具として駆使できること。 ・最小限のアプリケーションソフトを使いこなし、情報処理能力を高めること。 ・文書処理などの一般的な操作が理解できること。 				
回数	講義内容				
1	・授業オリエンテーション / ・タッチタイピング				
2	・マイクロソフト Wordの使い方 / ・タッチタイピング				
3	・タッチタイピング / ・Word機能紹介				
4	・社外文書作成① / ・Word機能紹介				
5	・社外文書作成② / ・Word機能紹介				
6	・社外文書作成③ / ・Word機能紹介				
7	・マイクロソフト Excelの使い方 / ・Excel機能紹介				
8	・Excel機能紹介・表作成 / ・課題提出				
講義方法 ※この講義では、604教室を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ・特にパソコンの操作は学生により差があると思われるが、学校教育の一科目である。ため、基礎から指導する。その後は各人の進捗に合わせて適切な実習を行う。 ・学生とコミュニケーションを取りながら楽しくマシン実習行う。 					
講義で使用する機器・教材 <ul style="list-style-type: none"> ・講義説明はプロジェクター使用。 					
履修上の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・授業には休まず毎日出席すること。欠席は提出課題作成などの遅れとなる。 ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋がります。 					
成績評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・主に提出課題で成績評価とする。 					
教科書・参考書 【教科書】 30時間でマスターWord&Excel2024 実教出版					
予習復習のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・特に予習復習の必要はなし。 					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	3年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	心理学	講義曜日	月曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	宇佐美貴章	実務経験			
講義目標	一般目標 ひとの心理のはたらきや動きについて理解を深める。				
	到達目標				
	神経発達症(発達障害)をもつひとの特徴について理解を深める。 認知行動療法的な考えかたについて理解を深める。				
回数	講義内容				
1	そのひとなりのストレス対処を知る				
2	こころの発達の偏りが大きめなひとについて知る				
3	こころの発達の偏りが大きめなひととのやりとりの配慮1				
4	こころの発達の偏りが大きめなひととのやりとりの配慮2				
5	「私」を主語にしたコミュニケーション				
6	自分で決めることを大切にする				
7	認知行動療法に基づいたものの見方 1				
8	認知行動療法に基づいたものの見方 2				
講義方法 グループワークなどの活動 映像の視聴や教科書や資料の閲覧 パワーポイント資料での解説					
講義で使用する機器・教材 パワーポイント 教科書 映像資料 配布資料					
履修上の注意事項 できればワークに楽しんで参加してほしいです。 講義内容は変更する可能性があります。					
成績評価方法 試験・ワークへの参加・ワークシート					
教科書・参考書 【教科書】 なおりはしないがましになる カレー沢薫					
予習復習のアドバイス 講義で扱わない教科書の内容も読んでみると、理解が深まると思います。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯科英語	講義曜日	火曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	日常の臨床で使用される歯科英語を習得し、実践的に利用できるようにする。				
	到達目標				
	①歯科医院で用いる英語専門用語およびセンテンスの意味を理解し、暗記できる。 ②英語を使って、患者さんに歯科治療の説明ができる。 ③英語圏(米国)において、実際に歯科衛生士が用いる歯科用語とセンテンスを学ぶ。				
回数	講義内容				
1	Unit9 喫煙と食生活－Smoking and Eating Habits－				
2	Unit10 歯周病対策－How to Prevent Gum Disease－				
3	Unit11 乳幼児のむし歯予防－Dental Health of Infants－				
4	Unit12 歯の健康のための活動－Dental Health Activities－				
5	Unit13 デイケアセンターにて－At an Daycare Center－				
6	Extra Unit A 歯科用語－Dental Terminology－				
7	Extra Unit B1 歯衛生士の一日(1)－Mission of Dental Hygienist 1－				
8	Extra Unit B1 歯衛生士の一日(2)－Mission of Dental Hygienist 2－				
講義方法					
教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用法やニュアンスを学びます。 歯科医院において広く使用されている英単語も多いので、日常臨床と合わせて学びます。 患者とのコミュニケーションに有用なセンテンスを学びます。					
講義で使用する機器・教材					
教科書、プリント、ビデオ					
履修上の注意事項					
教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用法やニュアンスを学びます。 歯科医院において広く使用されている英単語も多いので、日常臨床と合わせて学びます。 患者とのコミュニケーションに有用なセンテンスを学びます。					
成績評価方法					
授業における積極的参加の態度、課題の成績および試験の成績に基づき評価を行います。					
教科書・参考書					
【教科書】歯科英語の練習帳－English for Dental Hygienists－ 萌文書林					
予習復習のアドバイス					
教科書の内容を音声ファイルで視聴できます。授業開始までに、教科書の冒頭の説明に従って各Unitの音声ファイルをダウンロードし、視聴してください。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）	時期	前期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	1時間目（5/21のみ4時間目）		
科目名	組織・発生学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってきた組織の構造と機能について学び、説明できる。				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。 					
回数	講義内容				
1	総論：解剖学の種類、人体の構成、用語 細胞：細胞の構造、細胞の一生				
2	組織①種類と構成、上皮組織、支持組織、結合組織				
3	組織②骨組織				
4	組織③筋組織				
5	組織④神経組織				
6	発生①染色体と減数分裂、精子と卵子、受精と着床				
7	発生②胚葉の形成/胎児の成長と発育				
8	まとめ				
講義方法 教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。					
講義で使用する機器・教材 プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型					
履修上の注意事項 解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。					
成績評価方法 試験評価80% 授業態度、提出物20%					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学					
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎歯科医学特論	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	土谷昌広、佐々木優、根本英二、立谷麻衣、妻木ひろか、村上任尚、多田浩之、嶋田雄介、石幡浩志、齋藤悠、田中恭恵、佐々木詩織、長沼由泰、中村卓史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	必要な基本的歯科医学の知識と歯科の主要な疾患を理解する。 歯科衛生士として、臨床につなげるための知識や技術の習得を確実にする。				
	到達目標				
	これまでに学んだ知識の理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				
回数	講義内容				
1	生理学・口腔生理学 総論 (土谷昌広)				
2	生理学・口腔生理学 各論 (土谷昌広)				
3	病理・口腔病理 総論 (佐々木優)				
4	病理・口腔病理 総論 (佐々木優)				
5	フレイル① (土谷昌広)				
6	フレイル② (土谷昌広)				
7	歯科麻酔学 総論 (佐々木詩織)				
8	歯科麻酔学 各論 (佐々木詩織)				
9	生化学・口腔生理学 総論 (立谷麻衣)				
10	生化学・口腔生理学 各論 (立谷麻衣)				
11	歯科薬理学 総論 (中村卓史)				
12	歯科薬理学 各論 (中村卓史)				
13	衛生統計学 総論 (村上任尚)				
14	衛生統計学 各論 (村上任尚)				
15	障がい者歯科 総論 (長沼由泰)				
16	障がい者歯科 各論 (長沼由泰)				
17	歯内療法学 総論 (根本英二)				

18	歯内療法学	各論	(根本英二)
19	歯周療法学	総論	(石幡浩志)
20	歯周療法学	各論	(石幡浩志)
21	歯科放射線学	総論	(嶋田雄介)
22	歯科放射線学	各論	(嶋田雄介)
23	高齢者歯科学	総論	(田中恭恵)
24	高齢者歯科学	各論	(田中恭恵)
25	口腔外科学	総論	(齋藤悠)
26	口腔外科学	各論	(齋藤悠)
27	歯科矯正学	総論	(妻木ひろか)
28	歯科矯正学	各論	(妻木ひろか)
29	微生物学	総論	(多田浩之)
30	微生物学	各論	(多田浩之)
講義方法 国試問題などについて、まとめと解説を行う。			
講義で使用する機器・教材 パワーポイントやDVDなどを使用します。			
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。			
成績評価方法 履修した科目をまとめて試験を行う。7月からの国試模試(主要三科以外の点数)も加味し、評価を行う。			
教科書・参考書 【教科書】これまでに使用した、各科目の教科書、国試対策本。			
予習復習のアドバイス それぞれが国試において頻出の部分であるため、受講後には必ずまとめて復習を行うこと。			

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	3年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	衛生行政・社会福祉学	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	千脇隆志、高梨友也、 笠原江利子、人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標 法律・制度等の基本的枠組みと、歯科衛生業務を行う上で必要な諸法規を学ぶことを通して、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制の理解することができる。				
	到達目標 歯科衛生業務を行う上で、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制について理解し、社会に参画する資質を身につけることができる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション・法制度論 関係法規 地域包括ケアシステム				(千脇隆志)
2	社会福祉（1）社会福祉行政・生活保護と法規				(千脇隆志)
3	社会福祉（2）児童と家庭の福祉制度と法規・障がい者の福祉制度と法律				(千脇隆志)
4	社会保障（1）介護保険 社会福祉（3）高齢者の福祉制度と法律				(千脇隆志)
5	医療関係職種の法律と業務				(高梨友也)
6	社会保障（2）医療保険 年金保険				(高梨友也)
7	社会保障（3）労働法規と労働保険				(高梨友也)
8	歯科衛生士と法律 (人見早苗)				
9	歯科医師法・歯科技工士法 (笠原江利子)				
10	歯科口腔保健の推進に関する法律・医療法 (笠原江利子)				

講義方法

テキストに沿って進めます。

必要時、演習を行います。自ら考えて実践をイメージしていただきます。

実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。

講義で使用する機器・教材

パワーポイントやDVDなどを使用します。

毎回、授業資料等を配布します。

履修上の注意事項

感染予防のため、健康には留意ください。

感染対策については、学校の指示を確認し、授業に参加ください。

教科書を必ず持参してください。

成績評価方法

試験70%課題レポート20%授業態度10%

試験90%、授業態度10%(笠原江利子担当時間分)

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯周療法学	講義曜日	木曜日(7/14のみ火曜日)	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	高齢社会の我が国では、歯周病罹患者のケアによる口腔の健康的機能維持が医学的、社会的に極めて重要である。				
	歯科衛生士に必要とされる国民のニーズを的確に捉え、その治療と予防に不可欠な歯周疾患の病態と、その予防、治療に関する基礎知識、治療手技および介助技術を履修する。				
	歯周疾患の病態と、その予防、治療に関する基礎知識、治療手技および介助技術を履修する。				
講義目標	到達目標				
	歯科医師と連携し、歯周疾患の病態を把握する検査・分析法を習得する。				
	次に、病態のプロファイリングによって適切な治療計画が立案、患者に説明し理解を得るためのプロセスを学習する。				
	そして治療計画に沿って行われる施術、治療効果の再評価、メンテナンス等の指導法を習得する。				
回数	講義内容				
1	歯周疾患の基礎知識－概要，歯周組織の構造と機能（Ⅰ編1，2章）				
2	歯周疾患の基礎知識－歯周病の種類と病態（Ⅰ編3章の1）				
3	歯周病の原因，リスクファクター，歯周医学と疫学，インプラント周囲疾患（Ⅰ編3章の2～4）				
4	歯周病の予防と治療の基本，治療の進め方，問診（Ⅱ編1章，2章の1）				
5	歯周組織検査①－視診，ポケット，動揺度プラーク・歯石付着（Ⅱ編2章2）				
6	歯周組織検査②－咬合，エックス線，スタディモデル，習癖（Ⅱ編2章3～5）				
7	歯周基本治療の目的と効果，初診から再評価（Ⅱ編3章1～3）				
8	歯周病の抗菌療法（Ⅱ編4章），X線診査による診断と治療の実際				
9	歯周外科治療の目的，分類，禁忌，治療形態（Ⅱ編5章1，2）				
10	歯周外科治療の器材，歯周外科手術の種類と適用（Ⅱ編5章3，4）				
11	歯周治療の種類と術式（Ⅱ編5章5）				
12	根分岐部病変の治療法（Ⅱ編6章1～3）				
13	歯周治療としての口腔機能回復治療（Ⅱ編7章1～3）				
14	メンテナンスとサポータティブペリオドンタルセラピー（Ⅱ編8章1，2）				
15	歯周治療における歯科衛生士の業務（Ⅲ編1章、2章）				

講義方法

スライドによる補完的説明を加えながら教科書の内容を中心に歯周病学を紹介します。
理解力の確認のための小テストを行い、必要に応じてレポートを提出していただきます。

講義で使用する機器・教材

教科書, 配布プリントおよびスライド

履修上の注意事項

教科書におけるシラバス講義内容に記載されている項目について、授業前までに目を通しておくこと。
本科目は国家試験において主要な出題範囲に含まれることを念頭に、教科書の内容の入念な習得が求められる。
実際、国家試験では、教科書のあらゆる箇所から出題される事から、隅々まで内容を理解し、暗記すること。

成績評価方法

授業での履修態度と小テスト, レポート課題, および試験の成績を基に総合的に評価を行います。

教科書・参考書

【教科書】歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

本科目では臨床で実際に用いられる多くの専門用語が登場します。よって教科書を複数回熟読する必要があります。さらに、各種実習に併せて、教科書中の該当する箇所を読み返して下さい。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	障がい者・高齢者歯科 （障がい者歯科）	講義曜日	木曜日	講義回数	5
		単位時間数	5	単位数	0.5
講師名	長沼由泰	実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	障害のある人のQOLを高める歯科的援助を行うために、障がい者の全身・精神・行動・顎口腔の特徴を理解し、これらの人々に対する歯科医療の機能と役割および支援法を習得する。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念および障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。 2. 障がい者歯科医療体制とその中での歯科衛生士の役割を説明できる。 3. 障がい者の歯科治療における行動調整法と留意点を説明できる。 4. 障がい者の口腔ケアの必要性と支援法を説明できる。 				
1	障害の概念：歯科医療におけるスペシャルニーズ・障害の分類 地域における障害者歯科：障害者歯科と地域医療連携・障害者を取り巻く環境・障害者施策・関係法規				
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患				
3	障害者の歯科医療と行動調整				
4	リスク評価と安全管理・健康支援と口腔衛生管理				
5	障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション				
講義方法 講義はPowerPointによるスライドを用いて行う。					
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、配布プリント、教科書					
履修上の注意事項 他の臨床科目で学んでいる基本的な歯科疾患の特徴や治療法を理解して授業に臨むと、障害のある人における留意点の理解がしやすい。					
成績評価方法 定期筆記試験（100％）により成績を評価する。筆記試験は選択式					
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学					
予習復習のアドバイス 講義では教科書以外の関係分野についても取り扱う為、スライドレジュメを中心に講義内容を復習してほしい。障がい者への医療・福祉・教育制度など関連分野にも視野を広げて障害と障害のある人への理解と関心を深めてほしい。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	障がい者・高齢者歯科 （高齢者歯科）	講義曜日	水曜日	講義回数	5
		単位時間数	8	単位数	0.5
講師名	田中恭恵	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体・心理・社会的特徴と歯科治療を理解する。				
	到達目標				
	①全身および口腔の加齢変化を説明できる。				
	②高齢者を取りまく社会環境の変化を説明できる。				
	③高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。				
	④高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。				
	⑤高齢者の口腔健康管理を説明できる。				
	⑥歯科訪問診療の意義と目的を説明できる。				
	⑦高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。				
⑧サルコペニアとフレイルを説明できる。					
⑨高齢者の終末期ケアを説明できる。					
⑩高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。					
回数	講義内容				
1	高齢者を取りまく社会と環境				
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患				
3	高齢者の状態の把握				
4	高齢者の口腔健康管理				
5	高齢者に関わる医療と介護				
講義方法 教科書とスライドを中心とした講義					
講義で使用する機器・教材 授業で使用するスライドの一部を事前に配布する。					
履修上の注意事項 授業時間内に収まらない内容は、教科書を読んで自習すること。					
成績評価方法 授業への出席を前提として筆記試験の結果により評価する					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	2時間目（予定表を参照）		
科目名	歯科放射線学	講義曜日	木	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	嶋田雄介	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士に必要なエックス線診断の基礎を学び、基本的な病態診断の技術を習得するとともに、放射線の生理学的影響やエックス線の性質、撮影法について、理解を深める。				
	到達目標				
	1. エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たす役割を認識する。 2. エックス線診断の基礎を理解し、基本的な病態診断の技術を修得する。				
回数	講義内容				
1	エックス線の基礎知識				
2	歯科用エックス線装置				
3	放射線防護				
4	歯科用エックス線撮影法（口内法）				
5	歯科用エックス線撮影法（口外法）				
6	歯科用エックス線撮影法（パノラマ）				
7	CT MRI 超音波 放射線治療				
8	撮影実習(1)				
9	撮影実習(2)				
10	撮影実習(3)				
講義方法 1～7回は座学 8、9、10回は実習形式で行う。					
講義で使用する機器・教材 教科書および配布プリントを使用する。					
履修上の注意事項 講義時間内にできるだけ理解を深められるよう、努めること。					
成績評価方法 試験(90%)、受講態度(10%)によって成績を評価する。					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学					
予習復習のアドバイス あとから復習ができるよう、講義内容を整理しておくこと。					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3年
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床歯科医学特論	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	一ノ瀬正和、小笠原康悦、藤井昌彦、笠原紳、内藤章、中澤正絵、飯久保正弘、安部佳子、佐藤房郎	実務経験			
講義目標	一般目標				
	様々なライフステージの対象を理解するために必要な基本的臨床医学の知識と主要な疾患を理解する。				
	人々の健康保持・増進における歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
全身の疾患に関する理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。					
回数	講義内容				
1	内科学① 内科学への導入 （一ノ瀬正和）				
2	内科学② 感染症 （一ノ瀬正和）				
3	内科学③ 代謝・内分泌疾患 （一ノ瀬正和）				
4	内科学④ 消化器疾患 （一ノ瀬正和）				
5	内科学⑤ 循環器疾患 （一ノ瀬正和）				
6	内科学⑥ 呼吸器疾患 （一ノ瀬正和）				
7	内科学⑦ 腎・泌尿器・血液疾患 （一ノ瀬正和）				
8	内科学⑧ 免疫疾患。膠原病 （一ノ瀬正和）				
9	内科学⑨ 神経疾患・精神疾患・がん （一ノ瀬正和）				
10	内科学⑩ 内科学まとめ （一ノ瀬正和）				
11	情動機能から見た認知症 （藤井昌彦）				
12	口腔ケアと誤嚥性肺炎および老年症候群 （藤井昌彦）				
13	アレルギー・金属アレルギー① （小笠原康悦）				
14	アレルギー・金属アレルギー② （小笠原康悦）				
15	感染症対策 （後藤哲）				
16	周術期① （飯久保正弘）				
17	周術期② （飯久保正弘）				
18	歯科臨床概論 （笠原紳）				

19	歯科補綴学（総論・各論）	（笠原紳）
20	眼科学① 眼の外傷・障害	（内藤章）
21	眼科学② 眼の疾患（白内障・緑内障・糖尿病網膜症）	（内藤章）
22	歯科と糖尿病①	（中澤正絵）
23	歯科と糖尿病②	（中澤正絵）
24	摂食嚥下リハビリテーション①	（安部佳子）
25	摂食嚥下リハビリテーション②	（安部佳子）
26	摂食嚥下リハビリテーション③	（安部佳子）
27	摂食嚥下リハビリテーション④	（安部佳子）
28	パーキンソンニズム	（佐藤房郎）
29	脳血管障害	（佐藤房郎）
30	認知症	（上遠野純子）
講義方法 実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。		
講義で使用する機器・教材 パワーポイントやDVDなどを使用します。		
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。		
成績評価方法 平常点、テスト(内科学・周術期・摂食嚥下リハ他)、7月からの国試模試における主要三科の点数を総合して評価する。		
教科書・参考書 【教科書】 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック(医歯薬出版)、歯科衛生士のための歯科臨床概論		
予習復習のアドバイス 歯科臨床概論の講義は、内科学をはじめ、周術期、摂食嚥下、認知症など多岐にわたる。それぞれが国試において頻出の部分であるため、受講後には必ずまとめて復習を行うこと。		

講義要項(シラバス)シート

年度	2026年度(令和8年度)	時期	前期	学年	2学年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ-(歯周) 前期①(32回:演習)	講義曜日	変則	講義回数	16
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問		
講義目標	一般目標				
	ライフステージを通じた口腔健康の維持・増進を支援するために、歯周治療に関する知識、技術と医療職としての態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴・使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類・特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。				
回数	講義内容				
1	SRPの基礎技術①◎ Gキュレット基本操作(石膏棒)※3種の運動:補助DH(2人)				
2	SRPの基礎技術①◎ Gキュレット基本操作(石膏棒)※0度挿入について *歯肉あり:補助DH(2人)				
3	SRP基礎技法①◎(マネキン実習) #43~#33(唇側・舌側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
4	SRP基礎技法① (マネキン実習) #43~#33(唇側・舌側)※人工歯石付与*歯肉なし:補助DH(2人)				
5	SRP基礎技法②◎(マネキン実習) #44~#47(唇側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
6	SRP基礎技法②(マネキン実習) #34~#37(舌側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
7	SRP基礎技法③◎(マネキン実習) #34~#37(唇側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
8	SRP基礎技法③(マネキン実習) #44~#47(舌側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
9	シャープニング基礎実習①Ⓟ *補助DH(2人)				
10	下顎のグレーシーキュレット操作の振り返り ※実技試験公示 ※人工歯石付与 *補助DH(2人)				
11	SRP基礎技法④◎(マネキン実習) #13~#23(唇側・口蓋側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
12	SRP基礎技法④(マネキン実習) #13~#23(唇側・口蓋側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
13	SRP基礎技法⑤◎(マネキン実習) #24~#27(口蓋・頬側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
14	SRP基礎技法⑤(マネキン実習) #24~#27(口蓋・頬側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
15	SRP基礎技法⑥◎(マネキン実習) #14~#17(口蓋・頬側) *歯肉なし:補助DH(2人)				
16	SRP基礎技法⑥(マネキン実習) #14~#17(口蓋・頬側)※実技試験説明 *歯肉なし:補助DH(2人)				

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し,内容の理解を促す。また,講義内容の復習を心掛ける。
- ②基礎技術では,机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③基礎技法では,マネキンを使用し,実際の口腔内で器具操作を想定し器具操作を行う。また,器材の安全な操作と衛生管理を学ぶ。
- ④適時ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC,プロジェクター,顎模型,基本セット(M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エクスプローラー,ミラー,ピンセット)グローブ,ゴーグル,サンドペーパー,拡大鏡,シャープニングストーン,テスター,分度器,油性ペン,トレーニング用石膏模型

履修上の注意事項

実習については,限られた時間で区切られた部位を行うため,欠席すると大きく学習に影響することとなってしまいます。くれぐれも欠席が無いように,学生の理解と協力を促す。

万が一欠席があった時は,教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

成績評価方法

実技試験,出席状業,実習・学習態度

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版

歯科衛生学シリーズ 歯周病学

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで実習に臨む。
- ②グレーシー型キュレットの構造と特徴をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法,刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ⑤長期の休みや臨地・臨床実習期間においても,器具を全く持たない期間を作らないよう自己トレーニングを行うこと。

講義要項(シラバス)シート

年度	2026年度(令和8年度)	時期	前期	学年	2学年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ-(歯周) 前期②(32回:演習)	講義曜日	変則	講義回数	15
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子☒	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問		
講義目標	一般目標				
	ライフステージを通じた口腔健康の維持・増進を支援するために、歯周治療に関する知識、技術および医療職としての態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴・使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類・特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。 ⑤PTCの目的を理解し基本的技術を身に着ける。				
	講義内容				
回数					
1	シャープニング基礎実習②③ ※補助DH(2人)				
2	総合自由練習 実技試験オリエンテーション ※全顎の人工歯石付与:補助DH(2人)				
3	実技試験 *歯肉なし:補助DH(2人)				
4	実技試験 *歯肉なし:補助DH(2人)				
5	再試験または自己トレーニング *歯肉なし:補助DH(2人)				
6	再試験または自己トレーニング *歯肉なし:補助DH(2人)				
7	PTC・歯面研磨(講)③				
8	PTC・歯面研磨(講)③ ※PTC・歯面研磨基礎実習オリエンテーション				
9	PTC・歯面研磨基礎実習(マネキン) *補助DH(2人)				
10	PTC・歯面研磨基礎実習(マネキン)※相互実習オリエンテーション *補助DH(2人)				
11	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接.PCR・バイタ *補助DH(2人) 【0.5コマ/45分】				
12	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接.PCR・バイタ *補助DH(2人)				
13	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接.PCR・バイタ *補助DH(2人)				
14	B.歯周組織検査・口腔診査 A.問診・医療面接.PCR・バイタル *補助DH(2人) 【0.5コマ/45分】				
15	B.歯周組織検査・口腔診査 A.問診・医療面接.PCR・バイタル *補助DH(2人)				
16	B.歯周組織検査・口腔診査 A.問診・医療面接.PCR・バイタル *補助DH(2人)				

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し,内容の理解を促す。また,講義内容の復習を心掛ける。
- ②基礎技術では,机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③基礎技法では,マネキンを使用し,実際の口腔内で器具操作を想定し器具操作を行う。また,器材の安全な操作と衛生管理を学ぶ。
- ④適時ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC,プロジェクター,顎模型,基本セット(M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エキスプローラー,ミラー,ピンセット)グローブ,ゴーグル,サンドペーパー,拡大鏡,シャープニングストーン,テスター,分度器,油性ペン,トレーニング用石膏模型,低速エンジン,コントラアングル,歯面研磨剤

履修上の注意事項

実習については,限られた時間で区切られた部位を行うため,欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように,学生の理解と協力を促す。

万が一欠席があった時は,教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

成績評価方法

実技試験,出席状況,実習・学習態度

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版

歯科衛生学シリーズ 歯周病学

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで実習に臨む。
- ②グレーシー型キュレットの構造と特徴をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法,刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ⑤長期の休みや臨地・臨床実習期間においても,器具を全く持たない期間を作らないよう自己トレーニングを行うこと。

講義要項(シラバス)シート

年度	2026年度(令和8年度)	時期	前期	学年	2学年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ-(歯周)後期①(32回:演習)	講義曜日	変則	講義回数	17
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、渡辺 真輝、加藤美智子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年間勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問		
講義目標	一般目標				
	ライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し、情報を収集し口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる(プロービング、BOP、動揺度、PCR、根分岐部病変等) ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要なグレーシー型キュレット、シックル型スケーラー等器具、器材を選択し操作できる。 ④歯周治療に必要な機器の操作ができる。(歯面研磨・歯面清掃、超音波スケーラー・エアースケーラー、歯面清掃器等)				
回数	講義内容				
1	A.SRP相互実習(上下顎前歯部)B.歯科保健指導計画立案【0.5コマ/45分】 *補助DH(2人)				
2	A.SRP相互実習(上下顎前歯部)B.歯科保健指導計画立案 *補助DH(2人)				
3	A.SRP相互実習(上下顎前歯部)B.歯科保健指導計画立案 *補助DH(2人)				
4	B.SRP相互実習(上下顎前歯部)A.歯科保健指導計画立案【0.5コマ/45分】 *補助DH(2人)				
5	B.SRP相互実習(上下顎前歯部)A.歯科保健指導計画立案 *補助DH(2人)				
6	B.SRP相互実習(上下顎前歯部)A.歯科保健指導計画立案 *補助DH(2人)				
7	パワースケーラー◎ *実習前の器材準備のため:補助DH(2人)				
8	パワースケーラー、エアブラシ等使用(マネキン) *補助DH(2人)				
9	A.SRP相互実習(下顎右側白歯部) B.歯周組織検査結果、歯科保健指導 ①:PCR(前回と比較)【0.5コマ/45分】 *補助DH(2人)				
10	A.SRP相互実習(下顎右側白歯部) B.歯周組織検査結果、 歯科保健指導①:PCR(前回と比較) *補助DH(2人)				
11	A.SRP相互実習(下顎右側白歯部) B.歯周組織検査結果、 歯科保健指導①:PCR(前回と比較) *補助DH(2人)				
12	B.SRP相互実習(下顎右側白歯部)A..歯周組織検査結果、歯科保健指導 ①:PCR(前回と比較)【0.5コマ/45分】 *補助DH(2人)				
13	B.SRP相互実習(下顎右側白歯部)A..歯周組織検査結果、 歯科保健指導①:PCR(前回と比較) *補助DH(2人)				
14	B.SRP相互実習(下顎右側白歯部)A..歯周組織検査結果、 歯科保健指導①:PCR(前回と比較) *補助DH(2人)				
15	A.SRP相互実習(下顎左側白歯部)B.評価、 歯科保健指導②:PCR(2度染め)【0.5コマ/45分】 *補助DH(2人)				
16	A.SRP相互実習(下顎左側白歯部)B.評価、 歯科保健指導②:PCR(2度染め) *補助DH(2人)				

17	A.SRP相互実習(下顎左側白歯部)B.評価、 歯科保健指導②:PCR(2度染め) *補助DH(2人)
18	B.SRP相互実習(下顎左側白歯部)A.評価、 歯科保健指導②:PCR(2度染め)【0.5コマ/45分】 *補助DH(2人)
19	B.SRP相互実習(下顎左側白歯部)A.評価、歯科保健指導②:PCR(2度染め) *補助DH(2人)
20	B.SRP相互実習(下顎左側白歯部)A.評価、歯科保健指導②:PCR(2度染め) *補助DH(2人)
講義方法	
<p>①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。</p> <p>②基礎技術では、机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。</p> <p>③基礎技法では、マネキンを使用し、実際の口腔内で器具操作を想定し器具操作を行う。また、器材の安全な操作と衛生管理を学ぶ。</p> <p>④適時ミニテスト・課題を出すことがある。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>PC,プロジェクター,顎模型,スケーラー各種(M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エキスプローラー,ミラー,ピンセット)グローブ,ゴーグル,フェイスシールド,超音波スケーラー,エアースケーラー,歯面研磨器材,PMTC器材,シャープニング器材,染めだし液,ワセリン,綿棒,ダップングラス,歯磨きセット,手鏡,様式一式(口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録)</p>	
履修上の注意事項	
<p>実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。</p>	
成績評価方法	
<p>科目試験,出席状業,実習・学習態度,課題評価</p>	
教科書・参考書	
<p>歯科衛生士学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>①2年前期で学習した器具操作は、理解し教科書が無くても実施できるようにする。</p> <p>②実習予定部位・内容について、器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。</p> <p>③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解、口腔衛生指導に反映する。</p> <p>④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。</p>	

講義要項(シラバス)シート

年度	2026年度(令和8年度)	時期	前期	学年	2学年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ-(歯周)後期②(32回:演習)	講義曜日	変則	講義回数	16
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、渡辺 真輝、加藤美智子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し、情報を収集し口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる(プロービング,BOP,動揺度,PCR,根分岐部病変等) ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要なグレーシー型キュレット,シッケル型スケーラー等器具,器材を選択し操作できる。 ④歯周治療に必要な機器の操作ができる。(歯面研磨・歯面清掃,超音波スケーラー・エアースケーラー,歯面清掃器等)				
回数	講義内容				
1	A.SRP相互実習(上顎左側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)【0.5コマ/45分】				
2	A.SRP相互実習(上顎左側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
3	A.SRP相互実習(上顎左側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
4	B.SRP相互実習(上顎左側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)【0.5コマ/45分】				
5	B.SRP相互実習(上顎左側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
6	B.SRP相互実習(上顎左側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:下顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
7	A.SRP相互実習(上顎右側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)【0.5コマ/45分】				
8	A.SRP相互実習(上顎右側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
9	A.SRP相互実習(上顎右側臼歯部)B.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
10	B.SRP相互実習(上顎右側臼歯部)A.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)【0.5コマ/45分】				
11	B.SRP相互実習(上顎右側臼歯部)A.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
12	B.SRP相互実習(上顎右側臼歯部)A.ルートプレーニング技術:上顎歯肉縁下操作(模型)*補助DH(2人)				
13	A.歯周組織検査(再評価)B.評価、医療面接、歯科保健指導③:PCR *補助DH(2人)【0.5コマ/45分】				
14	A.歯周組織検査(再評価)B.評価、医療面接、歯科保健指導③:PCR *補助DH(2人)				
15	A.歯周組織検査(再評価)B.評価、医療面接、歯科保健指導③:PCR *補助DH(2人)				

16	B.歯周組織検査(再評価)A.評価、医療面接。歯科保健指導③:PCR *補助DH(2人)[0.5コマ/45分]
17	B.歯周組織検査(再評価)A.評価、医療面接。歯科保健指導③:PCR *補助DH(2人)
18	B.歯周組織検査(再評価)A.評価、医療面接。歯科保健指導③:PCR *補助DH(2人)
19	まとめ ※科目試験は、専任教員が行う。
講義方法	
<p>①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。</p> <p>②基礎技術では、机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。</p> <p>③基礎技法では、マネキンを使用し、実際の口腔内で器具操作を想定し器具操作を行う。また、器材の安全な操作と衛生管理を学ぶ。</p> <p>④適時ミニテスト・課題を出すことがある。</p>	
講義で使用する機器・教材	
<p>PC,プロジェクター,顎模型,スケーラー各種(M23,Gキュレット#5/#6,#7/#8,#11/#12,#13/#14,プローブ,エクスプローラー,ミラー,ピンセット)グローブ,ゴーグル,フェイスシールド,超音波スケーラー,エアースケーラー,歯面研磨器材,PMTC器材,シャープニング器材,染めだし液,ワセリン,綿棒,ダップングラス,歯磨きセット,手鏡,様式一式(口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録)</p>	
履修上の注意事項	
<p>実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。</p> <p>くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。</p>	
成績評価方法	
<p>科目試験,出席状業,実習・学習態度,課題評価</p>	
教科書・参考書	
<p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学</p>	
予習復習のアドバイス	
<p>①2年前期で学習した器具操作は、理解し教科書が無くても実施できるようにする。</p> <p>②実習予定部位・内容について、器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。</p> <p>③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解,口腔衛生指導に反映する。</p> <p>④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。</p>	

講義要項(シラバス)シート

年度	令和8年度	時期	前期	学年	3学年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅲ-1(歯周) 前期	講義曜日	変則	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、押野まみ、 渡辺真輝、加藤美智子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯周病とう蝕を予防し、人々の口腔内の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①プロービング技術の実際(把持法、プロービング圧、ウォーキングストローク)につ				
	②超音波スケーラーの特徴、使用用途・効果を理解しハンドピースの持ち方、チップの操作方法について習得する。				
③歯面研磨に用いる研磨剤の種類・特徴を理解し、PMTTC技術の実際について学ぶ。					
④歯面清掃器のパウダーの種類、特徴と安全上の注意事項、臨床における注意事項を理解し操作する。					
⑤フッ化物歯面塗布を実施し、実施上の注意点を説明できる。					
回数	講義内容				
1	口腔疾患予防実習 オリエンテーション				
2	口腔疾患予防実習① 下顎左側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
3	口腔疾患予防実習① 下顎左側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
4	口腔疾患予防実習① 下顎左側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
5	口腔疾患予防実習② 下顎右側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
6	口腔疾患予防実習② 下顎右側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
7	口腔疾患予防実習② 下顎右側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
8	口腔疾患予防実習③ 上顎左側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
9	口腔疾患予防実習③ 上顎左側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
10	口腔疾患予防実習③ 上顎左側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
11	口腔疾患予防実習④ 上顎右側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
12	口腔疾患予防実習④ 上顎右側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
13	口腔疾患予防実習④ 上顎右側 プロービング スケーリング 歯面研磨 歯面清掃				
14	口腔疾患予防実習⑤ フッ化物歯面塗布				
15	口腔疾患予防実習⑤ フッ化物歯面塗布				

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイント、プリントを利用し、内容の理解を促す。
- ②マネキン実習：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：相互で実際の口腔内を利用し、感染対策に考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版、パワーポイント、配布印刷物、基本セット、顎模型マネキン、スケーラー、超音波スケーラー、PMTC・歯面清掃器器材一式、フッ化物歯面塗布器材一式

履修上の注意事項

- ①遅刻や欠席をせず、歯科予防処置論の基礎を身につけられるよう意欲的に学んでください。
- ②実習は、手技を継続して習得するため、欠席し学習がされていない者は実習参加を認めないことがあります。
- ③身だしなみを整えて、忘れ物のないよう準備をしっかりと行い授業に臨んでください。

成績評価方法

出席状況、受講態度、提出物、筆記試験、実技、身だしなみ項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

講義要項(シラバス)シート

年度	2026年度(令和8年度)	時期	後期	学年	3学年
学科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅲ-(歯周)後期	講義曜日	変則	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問		
講義目標	一般目標				
	3年間学んだ口腔健康管理に必要な歯周治療の知識を確認し、歯科保健指導と結び付けながら、臨床へ応用できる実践力を身につける。				
	到達目標				
	①歯周病患者の事例を、患者中心の歯科医療の視点で捉え、症例検討・発表を通して、臨床での歯科予防処置を考察する。 ②様々な歯科保健指導を想定し、歯科予防処置に関連づけて、より効果的な口腔健康管理を行う基盤を身に着ける。 ③3年間の総合的な振り返りをしながら、歯科医療職として自己研鑽の継続の必要性を理解し、国家試験や臨床に備える。				
回数	講義内容				
1	う蝕・歯周病の特性⑩				
2	口腔内の情報収集⑩				
3	歯周病概要・治療法⑩				
4	歯周病概要・治療法⑩				
5	歯周病と全身疾患 ⑩				
6	歯周病の予防 ⑩				
7	メンテナンスとSPT⑩				
8	メンテナンスとSPT⑩*後期試験範囲を伝える				
9	口腔健康管理と歯周病				
10	口腔健康管理まとめ				
11	プラークコントロールに関する事例検討				
12	プラークコントロールに関する事例検討				
13	歯科予防処置まとめ、科目試験について				
14	科目試験 人見先生				
15	歯科予防処置(国試対策を中心にまとめ:歯周基本治療)				
16	歯科予防処置(国試対策を中心にまとめ:その他総合的に)				

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。
- ②演習:グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。
- ③発表:症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。
- ④適時、ミニテストや課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC,プロジェクター,iPad ,データ変換用アダプター,レーザーポインター,タイマー,マイク,卓上ベル

履修上の注意事項

- ①与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心をもち
- ②グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。
- ③欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。 ④ミニテストを行うこともある。

成績評価方法

科目試験,学習態度 ミニテスト・課題提出状況

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版
歯科衛生学シリーズ 歯周病学

予習復習のアドバイス

- ①グループワークでは、それぞれの役割の責任を果たすように、深い考察と探求心をもって、積極的に発言し発表に取り組む。
- ②自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	保健指導Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	渡辺真輝、加藤美智子、 押野まみ、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	健康教育活動の場で指導するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。 成人・高齢者の健康を保つための一般的な特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を習得する。				
	到達目標				
	健康教育の内容を説明できる。 学校歯科保健において、対象者の健康教育の立案、実施ができる。 成人・高齢者の特性・評価・口腔健康管理について説明・把握できる。				
回数	講義内容				
1	学校歯科保健 対象者把握 学齢期				
2	学校歯科保健 個別指導 2.3合同				
3	学校歯科保健 個別指導 2.3合同				
4	学校歯科保健 集団指導資料作成				
5	学校歯科保健 集団指導資料作成				
6	学校歯科保健 ポピュレーションアプローチ				
7	学校歯科保健1.2年生合同 発表				
8	学校歯科保健1.2年生合同 発表				
9	対象別歯科衛生介入 成人期 高齢期 p 354				
10	対象別歯科衛生介入 成人期 高齢期 p 354				
11	口腔衛生指管理演習① 高齢者				
12	口腔衛生指管理演習① 高齢者				
13	口腔衛生指管理演習① 高齢者 (0.5コマ)				
14	口腔衛生指導演習② 車椅子 実習				
15	口腔衛生管理演習② 車椅子 実習				
16	口腔衛生管理演習② 車椅子 実習 (0.5コマ)				
17	地域歯科保健活動のフィールド				

講義方法

教科書・スライド・プリント・講義・実習

講義で使用する機器・教材

教科書

講義内容により追加あり。

履修上の注意事項

遅刻・欠席をしないように、自己管理をおこなう。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意する。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導

予習復習のアドバイス

予習・復習し自ら意欲的に学習する。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	3学年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	保健指導Ⅲ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、人見早苗、押野まみ、 渡辺 真輝、加藤美智子	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 人見:歯科診療所、歯科衛生士養成機関等で46年間勤務 押野:歯科衛生士として歯科医院に7年間勤務 渡辺:歯学部附属病院に6年、行政に2年勤務 加藤:歯科衛生士として21年間歯科医院、専門学校教員7年勤務、歯科関連企業デモンストレーター、臨時保健所職員、在宅訪問		
講義目標	一般目標				
	歯科保健指導を通して、患者支援・援助を行うための、歯科衛生実践力を身につける。				
	到達目標				
	①患者の健康に対する問題点を明確にして、その解決方法を見出し、動機付けや行動変容を促し、提言する。 ②歯科衛生過程のプロセスを理解し、具体的な問題解決に繋がる提言ができる。 ③患者が健康を維持するための口腔健康管理・生活指導・食生活指導の知識を持つ。 ④災害時の歯科支援活動に歯科衛生士が関わることの重要性を理解する。				
回数	講義内容				
1	食生活と歯科疾患⑥				
2	栄養と歯科保健指導の要点⑥ 課題説明				
3	事例検討について				
4	食生活を中心とした生活習慣に関する事例検討				
5	食生活を中心とした生活習慣に関する事例検討				
6	摂食嚥下障害の実際				
7	災害歯科保健と歯科衛生士の活動				
8	歯科衛生過程の要点				
9	症例検討①				
10	症例検討②				
11	症例検討③				
12	症例検討④				
13	症例発表				
14	症例発表				
15	科目試験				

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し,内容の理解を促す。また,講義内容の復習を心掛ける。
- ②実例を通した歯科衛生プロセスに演習
- ④適時ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC,プロジェクター

履修上の注意事項

学習の目標を理解し,決められた要件に基づき課題行い,期限までに提出する。
また,Gワークを通して,与えられたテーマに対する発言や検討を積極的に行う。
遅刻・欠席をしないように,自己管理をおこなう。

成績評価方法

科目試験,出席状況,実習・学習態度,課題評価

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導 第2版

歯科衛生学シリーズ 歯周病学

予習復習のアドバイス

- ①演習で患者の実例に対する問題点の抽出等考察することを求めるため,これまで学習した歯科保健指導に関する知識を確認しておくこと。
- ②自分の考えを,読み手が理解しやすいように簡潔に文書化できるよう,日常から様々な文章を読んで下さい。
- ③生活習慣・食習慣・災害歯科保健等の教科書での基礎的内容を十分理解しておく。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	3
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	保健指導Ⅲ-2	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	渡辺真輝、加藤美智子、 押野まみ、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	健康疾病の概念を理解し、歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケア等の基本となる知識・技術を修得する。				
	到達目標				
	各症例や疾病、ライフステージにおける課題や問題に対して科学的思考をもって、口腔健康管理方法を実践できる。 学校歯科保健において、対象者の健康教育の立案、実施ができる。				
回数	講義内容				
1	学校歯科健康診断				
2	学校歯科保健 個別指導 2.3合同				
3	学校歯科保健 個別指導 2.3合同				
4	口腔機能管理 口腔機能低下症 p266-270				
5	口腔機能管理 口腔機能低下症 実習 実習室				
6	口腔機能管理 口腔機能低下症 実習 実習室				
7	生活習慣の指導				
8	配慮を要する者への歯科衛生介入				
9	配慮を要する者への口腔衛生管理 <車椅子> 実習室				
10	配慮を要する者への口腔衛生管理 <車椅子> 実習室				
11	歯科保健指導 まとめ				
12	歯科保健指導 まとめ				
13	科目試験 オリエンテーション				
14	口腔衛生管理 演習 1.3年合同 実習室				
15	口腔衛生管理 演習 1.3年合同 実習室				
16	口腔衛生管理 演習 1.3年合同 実習室				

講義方法

教科書・スライド・プリント・講義・実習

講義で使用する機器・教材

教科書

講義内容により追加あり。

履修上の注意事項

遅刻・欠席をしないように、自己管理をおこなう。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意する。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導

予習復習のアドバイス

予習・復習し自ら意欲的に学習する。

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	栄養学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笹山由貴	実務経験			
講義目標	一般目標				
	栄養学の基礎、ライフステージ別の特性、適切な栄養管理を理解する。				
	到達目標				
	歯科衛生士として、健康づくりにおける食生活改善指導ができる。				
回数	講義内容				
1	栄養の概念				
2	栄養素の種類とはたらき				
3	栄養素の消化・吸収				
4	健康と栄養				
5	食事と食品				
6	ライフステージと栄養				
7	栄養ケア・マネジメント まとめ				
8	定期テスト				
講義方法 PPTとテキストを使用					
講義で使用する機器・教材 PPT					
履修上の注意事項 1/3以上の欠席で、試験が受けられないので留意すること。					
成績評価方法 定期試験100%					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 栄養学					
予習復習のアドバイス 予習 教科書に目を通しておくこと。 復習 ノートや教科書を復習し知識を整理すること。授業終了後に配布するワークを解くこと。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床検査法	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	後藤弓里子、砂田咲子	実務経験			
講義目標	一般目標 歯科衛生士として患者の全身状態を把握するため、基本的な臨床検査法を学ぶ。				
	到達目標 臨床検査の基本知識と有病者への対応を習得する。				
回数	講義内容				
1	臨床検査総論、生理機能検査①				
2	生理機能検査②、生理機能検査③				
3	血液学的検査、出血・凝固系検査				
4	感染症検査①、感染症検査②				
5	肝機能検査、腎機能検査				
6	糖尿病、代謝・内分泌検査、免疫、血清、アレルギー検査				
7	自己免疫、輸血、悪性腫瘍検査、病理学的検査				
8	口腔領域の検査、国家試験対策				
講義方法 パワーポイントを用い講義(対面、オンライン、オンデマンド)および実習を行う。					
講義で使用する機器・教材 プロジェクター、PC、体温計(水銀、電子、耳孔用電子体温計など)、血圧計(水銀、自動血圧計など) パルスオキシメーター					
履修上の注意事項 正当な理由がない限り、授業を欠席しないこと。					
成績評価方法 平常点10%、試験評価90%とする。					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 臨床検査					
予習復習のアドバイス					

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	3年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目（9/2のみ2時間目のみ）		
科目名	医療事務（歯科）	講義曜日	水曜日	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	星麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	円滑な歯科医院業務に貢献できるよう、社会保険制度の仕組み及び保険請求に関する基礎知識を習得する。				
	到達目標				
		レセプトと保険請求の仕組みを理解し、迅速で正確な歯科請求事務能力を修得し、臨床の場に応用できる能力を身につける。			
回数	講義内容				
1	レセプトと社会保険の仕組み				
2	C1、C2の治療算定（カルテ作成&レセプト作成）				
3	前回の復習、基本診療～充填（カルテ作成&レセプト作成）				
4	前回の復習、基本診療～充填、修形、歯冠修復（カルテ作成&レセプト作成）				
5	前回の復習、投薬の計算（薬剤計算）				
6	前回の復習、C3（Pul）の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
7	前回の復習、C3（Per）の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
8	前回の復習、歯周疾患の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
9	前回の復習、ブリッジの治療算定（カルテ、レセプト作成）				
10	前回の復習、義歯の治療算定（カルテ、レセプト作成）				
11	前回の復習、レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）		604教室		
12	前回の復習、レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）		604教室		
13	前回の復習、レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）		604教室		
14	前回の復習、レセコン（講義で実際に使用した問題を入力）		604教室		
15	評価試験				

講義方法

- ・歯科事務:講義(必要に応じてパワポを使用しながら)
- ・レセコン:パソコン実習

講義で使用する機器・教材

- ・歯科保険診療ハンドブック、点数早見表、レセプト
- ・電卓

履修上の注意事項

歯科保険請求事務は、歯科衛生士と関連が深い。
授業を理解するためにも欠席することの無いよう意欲的に臨んでほしい。

成績評価方法

- ・筆記試験(80%)
- ・受講態度(10%)
- ・授業課題内作成(10%)

教科書・参考書

【教科書】歯科保険診療ハンドブック

予習復習のアドバイス

- ・投薬などの薬価計算は、忘れることの無いように練習してほしい。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護技術	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	本地光弘、横尾由香、大方広志、 河瀬総一郎、上遠野純子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	・歯科診療補助において対象の疾患や障害の特徴を理解し、適切に動作介助が行えるようにする。				
	到達目標				
		・高齢者の生理学的変化を踏まえ、歯科診療の際の安楽な姿勢の取り方を支援できる。			
		・歯科診療において治療台などに移動する際の動作の介助が安全に行えるようになる。			
		・認知症事例の心身の状態を理解し、その介助のポイントを踏まえた介助が行える。			
回数	講義内容				
1	地域医療と多職種連携について（河瀬総一郎）				
2	災害医療（45分）（河瀬総一郎）				
3	訪問歯科診療の実際① 9:45-11:15（大方広志）				
4	訪問歯科診療の実際② 11:30-12:15(45分）（大方広志）				
5	介護の基本（介護保険等）①（横尾由香）				
6	介護の基本（介護保険等）② 小テスト（45分）（横尾由香）				
7	高齢者の生理的变化(バイタイルサインの診方)／脳血管疾患事例の症状と障害像(援助のポイント) (本地)				
8	起居動作・移乗動作の介助の仕方（教室・廊下での実習）（本地光弘）				
9	W／Cの動かし方、介助の仕方／杖歩行介助の仕方1（実習室）9:45～（本地光弘）				
10	W／Cの動かし方、介助の仕方／杖歩行介助の仕方2（実習室）～12:15（45分）（本地光弘）				

講義方法 講義・演習を行う。
講義で使用する機器・教材 適宜PC等を使用する。
履修上の注意事項 技術習得のため、演習を中心に講義を行うため、動きやすい恰好で参加すること。45分ずつに分けて講義を行うコマがあるため、15時間の講義であるが、講義回数は、10回となる。
成績評価方法 複数の教員でカリキュラム運営を行うため、それぞれでの小テスト、課題レポート、実習態度などを踏まえて総合的に評価する。時間数に応じた配点とし、判定する。
教科書・参考書 特に無し
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	予定表を参照		
科目名	救急法（麻酔・心電図を含む）	講義曜日	金曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	佐々木詩織	実務経験			
講義目標	一般目標				
	全身麻酔、局所麻酔、精神鎮静法に必要な基礎知識を習得する。 歯科治療中の全身管理と偶発症発生時の対応について学ぶ。 救急処置に必要な知識と技術を習得する。				
	到達目標				
	歯科治療における歯科麻酔の役割を説明できる。 全身状態・バイタルサイン・各種麻酔法を説明できる。 全身的偶発症への対応と救命処置について説明・実践できる。				
回数	講義内容				
1	歯科麻酔学総論・バイタルサイン①				
2	バイタルサイン②・歯科疾患で問題となる全身疾患				
3	局所麻酔法				
4	全身麻酔法				
5	精神鎮静法				
6	歯科治療時の全身的偶発症				
7	救急蘇生法（講義）				
8	救急蘇生法（実習）				
講義方法 対面講義形式					
講義で使用する機器・教材 講義資料プリント、パワーポイント(PC持参予定)、プロジェクター					
履修上の注意事項 実習では模擬人形に対して胸骨圧迫を全員行います。 動きやすく、かがんだ際に問題ないの服装で参加しましょう。					
成績評価方法 筆記試験					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版					
予習復習のアドバイス 講義で配られるプリントと教科書を照らし合わせながら整理して学習を進めましょう。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	1, 2 時間目		
科目名	ビジネスマナー	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	久納令子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	社会人として接遇マナーの重要性、表現を学ぶ。歯科衛生士としての受付対応・電話対応の基本的対応をロールプレイングを通して、習得する。				
	到達目標				
		社会人としての一般常識を学び、患者対応の基本を実践できる。			
回数	講義内容				
1	自己紹介・学生と社会人の違い・教わる態度				
2	組織で働くということ・チームで仕事をする事・患者が求めるもの				
3	第一印象の重要性（身だしなみ・姿勢・表情・挨拶など）				
4	第一印象の重要性（物の受け渡し・ご案内・入退室の仕方など）言葉遣いの基本				
5	話すときの心がまえ・上手な話の聴き方・患者対応の基本				
6	患者対応の基本・さわやかな電話対応、ロールプレイング				
7	窓口対応の基本・電話対応の基本ロールプレイング・試験				
8	ビジネスに必要とされるポイント・仕事の基本・まとめ				
講義方法					
座学においてテキストに基づき学び、表情や物の受け渡し等は実践にて学ぶ。基本対応や電話対応もロールプレイングで身につくよう指導。					
講義で使用する機器・教材					
履修上の注意事項					
遅刻がないよう出席。授業を受ける姿勢も就業におけるビジネスマナーに通ずる心構え。					
成績評価方法					
講義時間中、10/21基本対応、電話対応の際にロールプレイング実施時の評価を行う。					
教科書・参考書					
【教科書】 テキスト(株式会社 ニチイ学館作)					
予習復習のアドバイス					
「ビジネスマナー」以外の授業でも、初めと終わりの挨拶を励行し、学校生活において学んだマナーを実行することで身に付けたい。					

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2年
学科	歯科衛生科	講義時間	1, 2 時間目		
科目名	看護概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笹原恵子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	対象者のライフステージにおける健康上の問題・課題を理解し、対象者の健康の維持・向上に必要な知識と技術を習得する。また地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	①対象を理解し、必要な知識・技術について習得できる。 ②社会資源の活用と多職種との連携・協働、多様な場における歯科衛生士の役割について説明することができる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション・保健・医療・福祉チームとの連携と役割				
2	対象の理解と支援				
3	制度と社会資源				
4	地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割				
5	看護技術（バイタルサイン ほか）				
6	看護技術（吸引・栄養と食事・与薬 ほか）				
7	看護技術演習①				
8	看護技術演習②				
9	まとめ（定期試験）				
講義方法 授業では、テキストと配布印刷物資料、視聴覚教材を活用する。 技術演習を実施し、知識の確認と技術を習得する。					
講義で使用する機器・教材 必要時授業内でお知らせします。					
履修上の注意事項 遅刻・欠席・早退の扱いは、学校の規程に従って対処します。					
成績評価方法 ①試験（70%）…持込不可による問題を出題する。 ②課題レポート（20%） ③授業への参加態度（10%）					
教科書・参考書 【教科書】歯科衛生士のための看護学大意 第4版					
予習復習のアドバイス 予習は、講義の最後に次週の告知をするので、次週まで教科書の該当部分を読み、疑問点を調べてくること。 復習は、講義の内容について、教科書、資料をまとめ、国家試験問題を解いてみること。					

講義要項（シラバス）シート					
年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	56
		単位時間数	116/120	単位数	
講師名	加藤美智子、加藤礼子、笠原江利子、渡辺真輝	実務経験			
講義目標	一般目標				
	各科の歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる患者対応ができる。					
回数	講義内容				
1	歯科診療補助Ⅱの目的と到達目標	歯科診療補助の基本	記録、略語、各種名称	1年復習	期末試験解説
2	歯科診療補助Ⅱの目的と到達目標	歯科診療補助の基本	感染予防 医療廃棄物	共同動作の基本	相互実習について
	2・3年生合同相互実習				
3	2・3年生合同相互実習				
4	2・3年生合同相互実習				
5	2・3年生合同相互実習				
6	2・3年生合同相互実習				
7	2・3年生合同相互実習				
8	共同動作の基本	フォーハンドテクニック	バキュームテクニック	講義	小テスト
9	共同動作の基本	A口腔観察と歯面清掃	バキュームテクニック（マネキン）	B相互実習手順と動作確認	フラッシング
10	共同動作の基本	A口腔観察と歯面清掃	バキュームテクニック（マネキン）	B相互実習手順と動作確認	フラッシング
	相互実習	歯面清掃Aポリシングと洗浄	バキューム	B器具器材学習	超音波SCマネキン
11	相互実習	歯面清掃Aポリシングと洗浄	バキューム	B器具器材学習	超音波SCマネキン
12	相互実習	歯面清掃Aポリシングと洗浄	バキューム	B器具器材学習	超音波SCマネキン
13	相互実習	歯面清掃A（エアブラシ）	バキューム	B器具器材学習	（超音波SCマネキン）
14	相互実習	歯面清掃A（エアブラシ）	バキューム	B器具器材学習	（超音波SCマネキン）
15	相互実習	歯面清掃A（エアブラシ）	バキューム	B器具器材学習	（超音波SCマネキン）
	A印象材の取り扱い（アルジネート印象材） B各種セメントの取り扱い				
16	A印象材の取り扱い（アルジネート印象材） B各種セメントの取り扱い				
17	A印象材の取り扱い（アルジネート印象材） B各種セメントの取り扱い				
18	A連合印象採得	2級窩洞（寒天・アルジネート）	石膏注入	B片顎概形印象相互	
19	A連合印象採得	2級窩洞（寒天・アルジネート）	石膏注入	B片顎概形印象相互	
20	A連合印象採得	2級窩洞（寒天・アルジネート）	石膏注入	B片顎概形印象相互	
21	A口腔内写真撮影	B歯肉圧排と支台歯印象採得	説明		
22	A口腔内写真撮影	B歯肉圧排と支台歯印象採得	説明		
23	A口腔内写真撮影	B仮封（石膏模型利用）			

24	A口腔内写真撮影 B仮封（石膏模型利用）
25	Aプロビジョナルレストレーション（前歯既成冠）
26	Aプロビジョナルレストレーション（前歯既成冠）
27	Aプロビジョナルレストレーション（前歯既成冠）
28	プロビジョナルレストレーション（大白歯）
29	プロビジョナルレストレーション（大白歯）
30	プロビジョナルレストレーション（大白歯）
31	Aプロビジョナルレストレーションの仮着脱着 B成形歯冠修復材の（マネキンⅡ級V級窩洞）
32	Aプロビジョナルレストレーションの仮着脱着 B成形歯冠修復材の（マネキンⅡ級V級窩洞）
33	試験
34	歯科臨床と診療補助 A保存修復 B歯内療法 / 薬品の管理
35	歯科臨床と診療補助 A保存修復 B歯内療法 / 薬品の管理
36	歯科臨床と診療補助 A歯冠補綴 B欠損補綴 /①配慮を要する患者対応
37	歯科臨床と診療補助 A歯冠補綴 B欠損補綴 /①配慮を要する患者対応
38	歯科臨床と診療補助 A口腔外科 C歯周外科 /②配慮を要する患者対応
39	歯科臨床と診療補助 A口腔外科 C歯周外科 /②配慮を要する患者対応
40	歯科臨床と診療補助 インプラント A麻酔 B診療室の感染対策
41	歯科臨床と診療補助 インプラント A麻酔 B診療室の感染対策
42	歯科臨床と診療補助 行政歯科 病院歯科
43	歯科臨床と診療補助 行政歯科 病院歯科
44	歯科臨床と診療補助 行政歯科 病院歯科
45	歯科臨床と診療補助 審美歯科
46	歯科臨床と診療補助 矯正歯科
47	歯科臨床と診療補助 矯正歯科
48	手術時の感染予防対策 メディコムジャパンセミナー
49	手術時の感染予防対策 メディコムジャパンセミナー
50	実技試験事前学習（課題A B C D）
51	実技試験事前学習（課題A B C D）
52	実技試験
53	実技試験
54	実技試験
55	実技試験評価
56	試験 まとめ

講義方法

教科書、スライド、、プリント 講義、 実習

講義で使用する機器・教材

教科書、他その都度連絡します。

履修上の注意事項

欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意してください。

実習(特に相互実習)は、事前実習を欠席した者は支障をきたすことがあり実習参加を認めないことがあるので注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。

教科書・参考書

歯科診療補助 歯科材料 歯科機器 各臨床科目教科書 指示のあったもの

参考:おしごとハンドブック

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して予習復習すること。

専門用語は調べ、、分からない文字は読めるようにしておいてください。

講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	3
学科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－①	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	加藤美智子、加藤礼子、押野まみ、 渡辺真輝、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。				
	到達目標				
	治療に必要な知識を習得し、治療の準備、術中の介補、術後の管理が適切にできる。患者の状態や状況に応じた対応が出来る。				
回数	講義内容				
1	歯科診療補助Ⅲの概要 相互実習について A 口腔内観察と歯式と略称記録練習 B 歯面清掃（超音波）とバキューム				
2	相互実習について A 口腔内観察と歯式と略称記録練習 B 歯面清掃（超音波）とバキューム				
3	相互実習A感染予防について 相互実習シミュレーション（エアブラシ） B共同動作 口腔観察と記録				
4	相互実習A感染予防について 相互実習シミュレーション（エアブラシ） B共同動作 口腔観察と記録				
5	2.3年生合同相互実習 A 歯面清掃（超音波 バキューム） B歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
6	2.3年生相互実習 A 歯面清掃（超音波 バキューム） B 歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
7	2.3年生合同相互実習 A 歯面清掃（超音波 バキューム） B歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
8	2.3年生合同相互実習 A 歯面清掃（超音波 バキューム） B歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
9	2.3年生合同相互実習 A 歯面清掃（超音波 バキューム） B 歯面清掃マネキン（超音波SC バキューム）				
10	診療補助まとめ 確認実習				
11	診療補助まとめ 確認実習				
12	A 実技試験 B 国試対策				
13	A 実技試験 B 国試対策				
14	A 実技試験 B 国試対策				
15	筆記試験 試験解説				

<p>講義方法 教科書、スライド、、プリント 講義、実習</p>
<p>講義で使用する機器・教材 教科書、他その都度連絡します。</p>
<p>履修上の注意事項 欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。私語はしない。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意してください。 実習(特に相互実習)は、事前実習を欠席した者は支障をきたすことがあり実習参加を認めないことがあるので注意してください。</p>
<p>成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。</p>
<p>教科書・参考書 歯科診療補助 歯科材料 歯科機器 指示のあったもの 参考:おしごとハンドブック 各専門科目の教科書</p>
<p>予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して予習復習すること。 専門用語は調べ、、分からない文字は読めるようにしておいてください 略称を覚える。 臨地実習を積極的に臨むこと。</p>

講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科診療補助Ⅲ－②	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	加藤美智子、加藤礼子、押野まみ、 渡辺真輝、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。 審美歯科の治療を通して、種類や方法、カウンセリング、コンサルテーションを学び、ホワイトニング法を習得する。				
	到達目標 審美歯科に必要な知識を習得し、意義を理解する。、ホワイトニングの術式、特徴が説明できるようになる。また実践できる。				
回数	講義内容				
1	審美歯科の診療補助 カウンセリングとコンサルテーション				
2	ホワイトニングについて				
3	相互実習 Aホワイトニングの測色と口腔内写真 歯面清掃 B アセスメント 口腔内診査				
4	相互実習 Aホワイトニングの測色と口腔内写真 歯面清掃 B アセスメント 口腔内診査				
5	相互実習 Aカスタムトレーのための印象採得 A石膏注入				
6	相互実習 Aカスタムトレーのための印象採得 A石膏注入				
7	相互実習事前指導 Aトリミング 再印象、石膏 B リトラクター付け方、粘膜保護 患者指導				
8	相互実習事前指導 Aトリミング 再印象、石膏 B リトラクター付け方、粘膜保護 患者指導				
9	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング Bカスタムトレー作成、デュアルWH患者指導				
10	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング Bカスタムトレー作成 デュアルWH患者指導				
11	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング Bカスタムトレー作成 デュアルWH患者指導				
12	相互実習 Aオフィスホワイトニングホワイトニング Bカスタムトレー作成 デュアルWH患者指導				
13	試験・解説				
14	相互実習 ホワイトニングの評価とメンテナンス A.測色、口腔内写真 歯面清掃 Bベスト クリニカルポイント				
15	相互実習 ホワイトニングの評価とメンテナンス A.測色、口腔内写真 歯面清掃 Bベスト クリニカルポイント				
16	歯科診療補助まとめ 国試対策				

講義方法 教科書、スライド、、プリント、講義、実習
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。連絡、掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻早退、をしないように意欲的に臨むこと。感染防止に努める。教科書、筆記用具、メモの準備をしてください。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物をしないように注意してください。 実習(特に相互実習)は、事前実習を欠席した者は支障をきたすことがあり実習参加を認めないことがあるので注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験・実技・相互実習・身だしなみ・忘れ物チェック項目で総合的に評価する。
教科書・参考書 歯科診療補助 歯科衛生士ベーシックスタンダードホワイトニング 指示のあったもの 参考:おしごとハンドブック 各専門科目の教科書
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して予習復習すること。 専門用語は調べ、分からない文字は読めるようにしておいてください。